

久留米大学附設高等学校同窓会 会報



久留米大学附設高等学校同窓会事務局
〒839-0862 久留米市野中町20-2
TEL 0942-44-2222
FAX 0942-44-8257
◎卒業生数 12,488名

同窓会ホームページ <http://www.fusetsu.gr.jp> 順次更新していますので是非ご覧ください。



附設のシンボル・『思考廻廊』



4回生のパネル/昭和28年6月26日の筑後平野大水害

目次

■ 挨拶	同窓会長 川嶋文信	02
■ 挨拶	学校法人久留米大学理事長／久留米大学学長 永田見生	03
■ 挨拶	附設高等学校校長 町田 健	04
■ 挨拶	後援会長 木下 明・校歌	05
■ 支部だより	全国11支部の活動	06
■ 海外だより	田中照章・佐川森彦・岡本達哉	21
■ トピックス	14回生同期会・15回生卒業50周年同期会・23回生同窓会	24
■ 高良随想	榎原 孝・井上和久	27
■ 会務報告	定期総会報告	29
■ 卒業生への支援	就職セミナー	35
	新人歓迎会	36
■ 在校生への支援	進路講座	37
■ 大学だより	東京大学・京都大学・慶應義塾大学・東北大学・産業医科大学	43
■ 母校のいま	進学状況報告	49
	高校前生徒会長 中村雅史	50
	男く祭実行委員長 友清雄太	51
■ 寄付・広告	52
■ 編集後記	同窓会室の紹介	000



同窓会長挨拶

「伝統の前に謙虚に頭を下げるとき、 伝統は再生して現在を創り未来を生み出す。」

同窓会長 川嶋 文信 (19回生)

お陰様で会報の発行も24回を数えることになりました。関係者のご尽力と沢山の方々から寄稿頂き深謝申し上げます。年々中身の濃い会報となり同窓会活動の活発化を象徴するものとしてお読み頂ければと思います。又広告に就きましてもご協力を賜り厚く御礼申し上げます。

同窓会の発展には、組織力の更なる強化が必要だと考えますが、その為には回生代表を中心とした同期の連絡網の充実や各種イベントを通じた縦の繋がりをより深めて行く事が肝要かと考える次第です。更に同窓会のホームページを充実させることも必要であると考えています。

附設の同窓会メンバーの一員であるとの意識は、一般的に極めて薄く、例えば還暦を過ぎて時間的余裕が出来て、同級会の集まりが活発化するという傾向にあるようです。同期に熱心な幹事が存在するとその傾向は幾分早まるようですが。クラスが一緒の仲間の一部との繋がりがなんとか保たれているのが一般的なところかと思えます。ましてや同窓生の縦の繋がりはより希薄であります。ほんの一部の方々と同窓会に愛着を持ち、会の活発化に尽力されたのが実情だと思えます。例えば創立50周年を記念して実行委員会の“21世紀のリーダーを育てる”（久留米大学附設高の教育基盤に関する報告書）というような素晴らしい書物は当時の3回生の國武先輩や13回生から29回生の8名の同窓生の編集委員の尽力で刊行されていますが、このような立派な刊行物が一部を除き同窓生に届くことは無かったように思います。こういう同窓会メンバーとしての希薄性を無くす施策としては、地道に福岡、東京を中心とした回生代表による横の連絡網の強化や、大学に入学した卒業生の各地での歓迎会等を通じ、若い時から附設同窓生としての自覚を高めて行くしか無いと考えます。私事で恐縮ですが所属した会社で7年程前に附設出身の社員のリストを作成し、声掛けして15人強の仲間と宴会やゴルフを楽しんでいます。この会報の広告も仲間とわずかですがお金を出し合い同窓生の意識を高めています。

縦の繋がりの顕著な例は東京での附設ゴルフコンペを通じて、11回生の方々と47回生の方々が交流を深

め、真に同窓会の規約にある互助の実践が行われている事は今年の会報にも記載した通りです。

立派な刊行物としては私の手元に創立40周年（中学20周年）に作られた“仰慕 帰心”という刊行物と創立50周年（中学30周年）に刊行された“和而不同”という板垣政彦初代校長が述べられた言葉をタイトルとした書物が有ります。

後者では、第8代の樋口忠治校長が1950年（昭和25年）の3月17日に財団法人久留米大学（同年2月20日の久留米大学及び商学部の設置の認可を受けて）となった旨（初代学長は小野寺直助氏）、又同年4月8日附設高等学校の開校式及び入学式が挙行された（同年2月27日に福岡県知事の認可を受けて）旨書かれています。因みにその時の専任教員数は板垣校長、檜崎副校長、教諭及び講師として大石亀次郎、三原正蔵、近藤宗平の5名、入学者数96名であったと記載されています。

久留米大学の小野寺学長と板垣初代附設校長との経歴を含めた密接なる関係が記載されています。

前者の創立40周年の刊行物には第5代の世良忠彦校長が、『創立、継承のわざ』というタイトルで、「創始の事業が厳粛なよろこびと苦難の多きわざであるとするならば、継承もまたこの上なく困難に満ちた再生のわざといわねばならない。（中略）経済的には常に危機の連続であった。しかし常に大学法人が肩代わりしたのであった。（中略）もしも我々がみんな謙虚に伝統の前にひざまづくことを忘れ、己ひとり高しと自ら決めこむならば、附設は滅亡への道を辿ることになる。（中略）伝統の前に謙虚に頭を下げるとき、伝統は再生して現在を創り未来を生み出すであろう。（略）」と述べられています。この先達の教えを今一度噛みしめて同窓会を盛り上げたいと思います。

最後になりますが、大学の90周年記念事業の募金活動に附設同窓会として協力することになりました。これにより、附設高・中の施設・設備の整備が促進されますので、宜しくご協力の程お願い申し上げます。



理事長・学長 御挨拶

我が国社会の活路を見出す原動力として、 国の行く末を担うべき世代

学校法人久留米大学 理事長
久留米大学 学長 永田 見生

本年度の入学式告辞の抜粋を寄稿します。

新入生の皆さん、附設の徽章は、九州で夏から秋にかけて清楚な花を咲かせる、芙蓉の葉を意匠化したものです。芙蓉峰といえば富士山を指すように、高い志を持ち、優しい人物に成長することも願って作成され、平成26年度から中学と高校が同じ附設の文字になりました。本日、この徽章を付けたお子様の制服姿に、今日まで苦勞を共に過ごされた分、ご父兄のお喜びも一入のことと存じます。

本校の歴史を紹介します。1950年、久留米大学附設高校創立時の初代校長の板垣政参（マサミツ）先生は、敗戦による国家窮乏の難局下に救国的赤心をもって、「国家・社会に貢献しうる、誠実にして気概のある人物の育成」を校是に定められました。創立当初の校舎は兵舎跡を使用し不十分でしたが、1968年に株式会社ブリヂストンの創業家、学校法人の石橋正二郎理事長の土地の寄贈により新校舎が建築され環境が整いました。

附設高校は、現在は有名進学校として認知されています。この発展は、原巳冬（ミトウ）第四代校長の回想録によりますと、歴代校長、教師、全校生徒の旺盛な向上心により形成された「生徒らが励むところに学校はある」という「附設のこころ」をもとに、皆がともに新しい学校を造り上げる気概と情熱に燃え、自らに厳しい試練を課し、全校一体となって理想に向かって邁進したからとあります。1969年には、原校長のもと「日本一の中学校」を目指した中学校が開校され、高校入試に費やすエネルギーを効果的に利用し、中学

時代から大学入試を必要以上に意識させない、余裕を持った中学生活が送れるような理想的な中高一貫教育のカリキュラムが組まれるようになりました。中高一貫教育の第一回卒業生の第23回生が卒業した年から、有名大学への進学率が飛躍的に向上し、2017年度の大学受験の合格者数は、東大が27名、慶應22名、早稲田14名、九大が40名などで、国公私立大学医学部合格数は134名で、ランキングは全国4位でした。

卒業後に皆さんが世の中で活躍する時代は、グローバル化や情報化が益々進展し、IoTが最大限に活用され、必要なもの・サービスを、必要な人に、必要な時に、必要なだけ提供し、社会の様々なニーズにきめ細かに対応でき、あらゆる人が質の高いサービスを受けられ、年齢、地域、言語といった様々な違いを乗り越え、生き活きと快適に暮らすことができる超スマート社会を国は目指しています。皆さんは、本年度から交代された町田校長（中学1回生、高校23回生）のご指導の下で、「超スマート社会」を未来の姿として共有し、さらに深化させつつ強力に推進した創造する時代に活躍できる人物に、自分自身が成長することを目標として勉学に励んでください。

皆さんは、我が国社会の活路を見出す原動力として、国の行く末を担うべき世代です。皆さんの世代がいかに関心、学識が優秀であるかにより、我が国の運命が決まります。校歌にある、修羅道の世を救うべく、板垣初代校長時代の校是の「国家・社会に貢献しうる、誠実にして気概のある人物」に成長することが、あなた方の大使命です。



校長御挨拶

教養と独創性を十分に身につけさせる 確固たる基盤をさらに発展させる

附設高等学校 校長
(高校23回生・中学1回生) 町田 健

本年度より附設の校長を勤めることになりました町田健です。昭和44（1969）年に附設中学が創設された時に入学し、昭和50（1975）年に高校23回生として卒業し、東京大学に進学して以来42年ぶりに母校に戻ることができたことを、心より光栄に存じております。私が中学に入学する少し前に、現在の地に新校舎が建造されており、当時はまだ新築の雰囲気は漂っておりました。私は甘木より西鉄甘木線とバスを使って通学しておりましたが、私の通っていた小学校の建物は木造2階建の古い校舎で、設備も古びたものばかりだったので、靴のまま中に入ることができて、トイレも水洗である附設の校舎で勉強できることを誇らしく思ったものです。

現在ではその校舎も体育館もなくなり、新しく大きな校舎と体育館に取って代わられております。私が卒業してからの附設の発展を視覚的に象徴するものであるように思われ、その発展にいささかでも貢献をなすことが出来るよう、力を尽くす所存でおります。

校舎と併んで附設の進化を具現しているのが、女子生徒の存在です。中学の共学化以来、女子の割合も3割を超えるまでに増えております。私は大学の文学部におりましたので、女子が多数を占める授業が大半でしたし、別に所属していた国際教育交流センター（旧留学生センター）では、教員の8割が女性でした。ですから、周囲に女性がたくさんいる環境には慣れているのですが、中等教育を受けている間は男子ばかりでしたので、まだ若い年代の女子生徒に接することは新鮮な経験です。彼女たちの多くは恵まれた環境で育ってきているので、発言も身のこなしも上品であり、私からの挨拶にも明るく応えてくれます（もちろん、多数を占める男子生徒たちの反応も同様です）。彼女たちは、国公立大医学部を志望している場合が現在では多いようですが、今後中学からの女子生徒が増えれば、文系を志望する者の増加も期待されますから、医学部偏重の志望傾向も、いくらかは均衡を取り戻すことが出来るのではないかと考えています。

附設の教育の特徴は、教員の極めて熱心な教育と、生徒の自由の尊重です。東京や関西の名門進学校では、ともすると自由を尊重するあまり、教員も自由に、言い換えれば自分勝手に教育内容を決めてしまい、基礎的な知識の獲得は生徒自身に委ねる場合もあ

るやに聞いております。それでもこれらの学校が高い進学実績を上げているのは、生徒の学力がそもそも高いことと、外部の教育機関での学習も、暗黙の前提としていることが理由だと考えられます。これに対して、附設の教育は学校の内部で完結する、まことに効率のよい優れたものであり、久留米という地方都市に存在するために余儀なくされている部分も大きいとは言え、教員と生徒が一体となって高いレベルの教育を力強く実現することが出来る環境が醸成されていることは、附設の誇るべき伝統だと確信しております。

私が東京大学に入学した時に、東京出身の友人たちに接して感じたことは、私の知らない思想家や芸術家のことをよく話題にすることでした。私も学校で教わる知識以外に、自分なりに本や雑誌を読んで、いくらかは教養を身につけたつもりではおりましたが、やはりそれでは十分ではありませんでした。もちろん、大学入学後に自らの力で高い教養を獲得することは出来るのですが、中等教育でもある程度の文化的素養を身につけておいた方が、進路を決定する過程でも有効に機能するし、人間性を深めるための重要な要素となるのではないかと考えられます。附設では、中学卒業前に卒業論文・制作が課され、関心のあるテーマについて自分で資料を収集したり、調査を行った上で、その結果を分析し結論を出すという作業が要求されます。この方法は、生徒の自由な思考と独創性の獲得を可能にするだけでなく、幅広い教養を身につけるよい機会ともなります。教員の側でも、授業中に提供する基本的な事項以外に、それに関わる教養的な知識も併せて話題にするように努めているとのことなので、私たちの時代以上に多岐に渡る、深い内容の教育が実現していることを感じております。

附設が目指す「全人教育」が本来意味するはずの内容が完全に達成されることがいかなる状態なのかは未だに分かりませんが、少なくとも、高い進学実績を可能にする優れた学力と、これに応じた教養と独創性を十分に身につけさせる確固たる基盤が現在の附設にあることは確かです。その基盤をさらに強固にして発展させることが出来るようになることを願うとともに、これに対する助力を惜しまないつもりでおります。同窓会の会員の皆様にも、附設の今後とも発展のために、ご協力を賜るよう何卒よろしくお願い申し上げます。



後援会長御挨拶 完全共学化へむけて

後援会長 木下 明 (37回生)

本年度から後援会会長を務めさせていただき木下明です。平成9年に弁護士登録後、平成12年から福岡市内で法律事務所を開設し、今日に至っております。

現在、子供2人が高校3年生と中学3年生で母校にお世話になっており、私は、後援会の役員になって5年目となります。現在の高校3年生が中学男子校の最終学年であり、私が後援会の役員として母校に行くようになった当初は、校内の女子生徒が多くなっていくことについて、同窓生としては若干違和感がありましたが、今ではすっかり当たり前の光景となりました。

先日、卒業以来29年ぶりに「男く祭」を見ました。

多才な高校生たちのエネルギーに圧倒され、「今どきの附設生はたいしたものだ」と心から感心しました。今年のテーマは「不易流行」(絶対に変わることがない本質部分を忘れずに、新しく変化を続けているものを取り入れていくこと)ということでした。

後援会としても、母校の伝統を大切にしつつ、様々な変化を取り入れ、学校及び生徒たちを支援していく所存です。同窓会におかれましても、より一層のご支援、ご協力をいただきますようよろしくお願い致します。

以上

校歌

久留米大学 附設中学校 校歌
附設高等学校

大石亀次郎 作詞
藪 文人 作曲

一、高良山下の学園に

万朶の桜咲きそろい

若き血潮の高鳴るを

見ずや 希望の揺籃地

二、江月冴えて 悠久の

流れは遠し 千歳川

高き彼岸の光明を

見ずや 試練の理想郷

三、修羅道の世を救うべく

平和の偉業 任として

築く不朽の真善美

見ずや 我等の大使命

北は北海道支部から南は大分支部まで、全国10支部に加えて、昨年2月、中部支部が新たに設立され、11支部となりました。また、一昨年末、東北6県でも仙台を中心に東北OB会が設立されました。地元福岡では、サロン・ド・附設イン福岡、同北九州、同久留米の他に、有明OB会、筑後OB会、朝倉OB会、筑豊OB会、久留米OB会が活動しています。

各地で活発な同窓会活動が繰り広げられています。この『支部だより』コーナーでは、各支部の活発な活動報告をお届けします。

●東京支部●

同窓生同士が回生を超えて活発に交流する中で、 多様な交流が可能に!



東京支部長
小田 恵 介 (19回生)

多くの支部員を有する東京支部では、今まで様々な取組を行い同窓会活動の活性化を図って来ています。

同窓生同士が回生を超えて活発に交流する中で、多様な活動が行えるようになりました。

東京支部では、懐かしい友との出会いの場であると共に、同窓会が持っている優れた資産を、同窓生皆さんが活用出来るような場をこれからも提供していきたいと考えています。

みなさま、こんにちは。この春、65回生の卒業で、附設の卒業生は12,488名に達しました。首都圏の同窓生は約4,000名を抱えます。毎年卒業生200名のうち、おおよそその半数の100名が、首都圏の大学に進学して上京して、東京支部の会員になります。

今日、東京支部があるのは、豊田勝業支部長(1回生)、渡辺望稔支部長(8回生)、長縄雅夫支部長(14回生)の、母校愛と、同窓生、在校生への並々ならぬ熱い思いによる長年の地道な活動と、それを支えていただいた、同窓生皆様のご支援のお陰です。

さらに同窓会の人的資源を活用していける場を、様々な形で提供して、『会員間の互助親睦並びに母校の発展』に、寄与したいと考えています。

一昨年12月には新たな支部として中部支部の設立を支援し、昨年12月の定期総会で中部支部が正式に設立されました。また一昨年12月に東北OB会が設立されましたが、今年4月には川嶋会長も出席されて第2回東北OB会が開催されました。さらに、関西支部では、現役大学生の幹事を中心に、年々活動が活発になっています。

今後、様々な業界の『附設の輪』が広がることを期待してやみません。福岡支部とともに両輪となって、同窓会本部を支え他の支部を応援していきます。

長谷川房生前会長がめざされた『附設ファミリー』が名実ともに豊かになり、附設に学んだ事を幸せに思えるようになることを期待しています。

【支部での活動と今後の課題】

- | | |
|-------------------|-------------------------|
| ① 回生代表世話人会 | 4月、9月の年2回 |
| ② 新人歓迎会 | 6月 |
| ③ 支部総会 | 11月 |
| ④ 就職セミナー | 2月、4月……今年で22回を迎える |
| ⑤ 他支部との連携 | 関西支部、中部支部、北海道支部、東北OB会など |
| ⑥ 東京事務局の開設 | 2016年7月に田町に東京事務所を開設 |
| ⑦ サロン・ド・附設イン東京の復活 | 芙蓉懇話会など例会の開催 |

平成28年度東京支部総会報告

『附設今昔～もう一度受けたあの授業』で模擬授業！

幹事長 木内 大 (33回生)

平成28年11月12日、秋空が晴れわたるさわやかな土曜日の午後、附設同窓会東京支部総会がベルサール飯田橋ファーストにて取り行われました。

同窓生322名、来賓11名が集い、例年の通りにぎやかな同窓会となりました。最高齢は7回生(満76歳)、最若手は卒業したての64回生(満19歳)。特筆すべき近年の傾向ですが、全体の3割近い92名の現役学生が集まりました。同窓会に若いうちから参加してくれることは会の活性化につながり喜ばしいことです。

午後2時、東京支部総会が開会、物故者への黙祷、東京支部の会計報告、学生向け就職セミナー報告、ゴルフ会などの活動報告が行われました。小田恵介支部長からは、平成26年度の國武豊喜先輩(2回生)に続き、同じく2回生の中野三敏先輩が平成28年度文化勲章を受章したとの嬉しい報告があり、総会に花を添えました。

午後3時からは懇親会を開催、広いホールは熱気であふれました。テーマは「附設今昔～もう一度受けたあの授業」。

世代を超え、野中町の校舎で過ごした貴い日々を思いを馳せ、附設や仲間、恩師への感謝を新たにしたい、という思いで企画したものです。吉川敦前校長をはじめ、現役・OB合わせ8名の恩師をお招きし、同窓生との再会を祝っていただきました。

川嶋文信会長のご挨拶、乾杯に続き、メイン企画、懐かしい恩師による「模擬授業」を特設教室でご披露いただきました。緒方先生のホームルームに続き、現役教諭の福田先生、池ノ都先生、幹事学年担任の堀畑先生、合原先生、佐々木先生にそれぞれの科目を懐かしい名調子でご講義いただき、古株にとっては新鮮な

女子同窓生も生徒役として参加し、懐かしくも華やかな授業風景となりました。幹事学年の33回生を代表し、タレントとしても活躍している本村健太郎弁護士が生徒役のリーダーを勤め、楽しい進行となりました。授業中、生徒役OBがビールを飲んでいただのはご愛嬌。



模擬授業のあとは、幹事団の力作「附設今昔スライドショー」が上映されました。同窓生から募った1000枚以上の写真から、いろいろな時代の附設の校舎、生徒、学校生活の写真を選び抜き、時代とともに変遷していく中にも変わらぬ附設的な光景を紹介し、母校愛をくすぐるノスタルジックな仕上がりとなりました。感動的な音楽に合わせたエンディングでは大きな拍手が起こり、涙する方もおられました。

午後6時、校歌を全員で高らかに歌い上げ、恒例の長谷川房生前同窓会長の万歳三唱とともに再会を誓って散会となりました。

企画・運営にご協力いただいた皆様、遠方から駆けつけてくれた同窓生、そして恩師の皆さまに感謝申し上げます。



●北海道支部●

第29回 北海道支部同窓会
来年は30回の節目に当たります！

北海道支部長 檀浦龍二郎 (20回生)

昨日6月24日、29回目の同窓会を例年どおり狸小路の札幌ビール直営ライオン店で行いました。当日は2回生から65回生まで、18名（社会人8名、学生10名）の参加がありました。互いに現状を報告しあったり、情報交換をしたり、ジンギスカンとビール（未成年はコーラ）で大いに盛り上がりました。2次会はこれも例年どおり、すすきののサントリージガーバーでさらなる話はずみ、また一段と親睦が深まったようです。来年は30回の節目の年に当たりますので、川嶋同

窓会長、町田校長をお招きする予定であります。校長の町田健先生は、かつて北海道大学におられまして、同窓会にもよく顔を出されておりましたので、皆さん再開を楽しみにしています。

さて、北海道支部は現在事務局（西見）で37名の方を掌握しています。小所帯ですが、これからもこうした会を続けていきますので、宜しくお願いします。まだ連絡のとれていない方もおられると思いますので、20回生の檀浦か西見まで連絡ください。



現役学生の歓迎会も兼ねて、今年から春に開催！

事務局 小川 進 (20回生)

東北とは（青森・秋田・岩手・山形・宮城・福島）の6県をいいます。

関東までは附設高卒業生が多く活躍していますが、東北は在住者も少なく、現在10数名にメール連絡がつく程度のために、同窓会規約に則った活動が望めません。そこで2015年から、「OB連絡会」として東京支部の応援をいただきながら、年一回懇親会を開催しています。今年からは大学在籍者の歓迎会も兼ねるために、春の開催となりました。

◆春の懇親会

日時 2017年4月22日(土)12時～14時

会場 仙台メトロポリタンホテル

参加者 8名(東北5名・東京3名)

今回は川嶋会長にもおいでいただき、和やかな雰囲気で開催されました。添付写真のように60歳以上の参加者のなかに、現役東北大生の佐々木君が参加してくれ、最近の母校の様子なども知ることが出来ました。

◆来年度

大学生は4月はサークル勧誘で多忙とのことでしたので、来年は5月の連休明けに懇親会を開くこととなりました。東北在住者をご存知の方は同窓会事務局までご連絡をいただけましたら幸いです。



2017年4月22日 春の懇親会にて(括弧内は回生)

町田新校長就任！ 第2回支部総会を開催いたしました！

中部支部長 石井三記 (21回生)

2015年12月に設立されました中部支部は、2016年11月26日に、第2回の総会を開催することができました。前回は千種駅近くのメルパルクで金曜日夜の開催でしたが、今回は遠方からの参加者にも気楽に来ていただけるように、名古屋駅近くの居酒屋で土曜日に開催することにしました。

中部支部内では岐阜県からの参加者もあり、また今回も東京支部長の小田恵介さん、同じく東京支部の中村尚昭さんが駆けつけてくださり、全部で22名の参加者となりました。会には8回生から43回生まで集まり大変盛会でした。

参加者のみなさんにとってサプライズだったのは、この中部支部設立の立役者であります町田健(23回生)さんが附設の学校長になられるとのニュースでした。本報告執筆者のわたしにとっては、職場が同じということもあり、去りゆく同僚を見送る若干複雑な立場ではあるのですが、附設の校長を送り出すことができましたことを中部支部メンバーとしても誇りに思う次第です。町田新校長のご活躍を祈念するとともに、次回支部総会には校長としてのご参加でまた盛り上がることになるかと確信しております。なお、町田さんの転出に伴い、新しく副支部長に平田克弘さん(35回生)に就任していただくことになりましたので、ご報告申し上げます。



評議員の若返りによる活性化と、 女性が参加しやすい会に!!

関西支部長 甲斐田 郁夫 (21回生)

関西支部では、ここ数年、6月末に新入生歓迎会を、11月末に関西支部総会を開催しております。

28年度の関西支部新入生歓迎会は、平成28年6月25日(土)午後6時から京都先斗町通三条のメキシコ料理店エルコヨーテにて開かれました。

初めての学生主導の新入生歓迎会は、土曜日のお昼の京都開催となり、学生参加者は31名の多きに達し、関西地区の同窓大学生のほぼ全員が集まった感がありました。社会人においても19名の参加をいただき、今回が初参加という方も多数おられました。学生幹事の方々の事前準備も素晴らしいもので、老若男女の非常に盛り上がりを持った会となりました。

又、昨年度の関西支部総会は、平成28年11月25日(金)午後6時30分から例年の大阪住友クラブにて行われました。当日は、長谷川前同窓会会長にもお出でいただき、友添会長時代からの常連の先輩方を多数お迎えし、新入生歓迎会とは異なった趣の会となりました。

両会とも、終了後に、夜の先斗町や御堂筋に消えた同窓生も多数おられたようです。

友添前会長は一時、体調を崩されておりましたが回復なされ、昨年末の関西支部総会にご出席の意向をお聞きしておりましたが、未だ健康面が万全ではないとのことで、本年度の参加は見送られております。来年度こそは、参加いただける事を願っております。

毎回ご報告しておりますように、関西支部という名の割には社会人が集まらないのが、関西支部の悩みでございますが、幸いにも、61回生の廣田駿介さん、宮平和人、佐伯洋輔さん、62回生の吉村真緒さんをはじめとする学生諸子のご協力で、継続して同窓会が維持されておりますのが現状です。

従いまして、小田東京支部長のご助言で、昨年末の総会において61回生の佐伯洋輔さんを評議員に選任致しました。今後も、評議員の若返りによる活性化と、女性が参加し易い会に取り組んでいく所存です。

各地区の同窓会の皆様で、関西に知己の同窓生がおられる方は、是非私ども関西支部にご連絡いただき、会に参加いただくよう、お申し添えいただきますようお願い致します。

以上、簡単ですがご報告申し上げます。



2017年6月24日新人歓迎会 京都・三条にて

● 中国四国支部 ●

恒例の夏の暑気払い、冬の新年会を開催！

支部長 今田 忠 則 (19回生)

◆ 支部活動

(昨年度活動結果、今後の活動内容 他)

1) 恒例の夏の暑気払い、冬の新年会を開催しました。またそのための事前小宴も数回行っています。

日頃会えない方たちとの懇親を深め、新鮮な情報を得、またわが高校の変な良さといいますかどこからともなく新しい転入者に来ていただけるのもまた一興かなと思っております。

なお一層の同窓会本部及び各支部の連絡先をHPにて広くPRすることの大事さを感じているところです。

2) 今年は中四国支部総会を10月28日(土曜日)18:00に開催します。校長先生、同窓会会長、副会長、東京支部長の出席をお願いしております。広島駅の周辺で開催しますので関係者は是非出席してください。歓談しましょう。

◆ 同窓会員の動向 (異動、個別活動 他)

前回は申しましたが、近くにお寄りの際は声をかけてください。誰かが対応しますよ。ということで今回も九州の日野さん、東京の小田さんと寄っていただきそれぞれで歓談しております。今後ともよろしく願います。



高垣広島県副知事(中央)と久富氏(左)

◆ 学生の動向

(大学の状況、学生の活動、新入生の動向 他)

昨年は60回生の広島大学医学部医学科4年の久富修君が「IAEA協働センター」に指定され、被爆者医療分野で広島が培った経験を生かした人材教育や共同研究等で緊密に連携することとなり、今回で3人目となる派遣者として選ばれIAEAに派遣されたことをご報告します。

(派遣先：原子核科学・応用局、人間健康部、応用放射線生物学・放射線治療科)



新年会 H29.1.21

平成28年11月、原新支部長のもとで再スタート!!

山口支部 幹事 **小野 康行** (16回生)

山口支部は平成24年7月に結成されました。

何度か会を開催してきましたが、その後、名誉顧問の麻上義文先生(1回生)のご逝去、支部長の小柳信洋先生(14回生)の下関市民病院理事長退職等で休会状態になっていました。

昨年平成28年11月、もう一度きちんと活動しようということで、原好弘先生(10回生)と相談、山口グランドホテルで、11月4日に支部総会を開催しました。参加人数は少なかったものの、新支部長に原先生、幹事は従来通り小野(16回生)で再スタートをきりました。

山口県はご存知の通り、東西に長く、西の下関と東の岩国では150Km以上離れ、南北も中央を山間部よって分けられており、会を開催するにも交通の便が不便な地区でもあります。

又、卒業生の約半数は下関市に在住、残りは山口大学医学部のある宇部市に残りの半分、後は山口市、周南市等に分散しています。従いまして、支部総会を開催するにも、在住者の多い下関か、県の中心の山口(旧小郡)で迷うのが現状です。

現在、山口大学医学部では、新入生の歓迎会も開か

れていますが、総会となると、どうしても年配者の出席が多く、若い同窓生の参加も今後は必要かと思えます。

支部では年1回の総会の開催と、折に触れての懇親会も開催したいと思っています。

山口県は海の幸、山の幸に非常に恵まれていて、日本酒の美味しい県としても、最近、話題になっています。唯一日本酒の生産量が伸びている県です。

会を開催する時には、他支部の方へも、ホームページ等を通じて、ご案内をいたしますので、参加が可能な方はぜひご出席いただきますように、よろしく願いいたします。



●佐賀支部●

年1回、佐賀支部会と芙蓉医会を開催!! 乞う若い支部会員の参加!!

佐賀支部長 三根 茂 (17回生)

◆平成28年度佐賀支部会 8月27日(土)

佐賀市：おおしま 18：00～20：30

唐津保健福祉事務所 保健監 唐津保健所長 中里栄介(34回生)氏に「災害時の行政の対応」と題し講演して頂きました。阪神・淡路大震災および東日本大震災を経験し、災害時の行政（緊急医療としてはDMAT災害医療派遣チーム）および民間の緊急救援支援体制が整備されつつあります。28年4月には思いもよらず隣県に熊本大地震が発生しました。氏は東日本大震災・熊本大地震とも被災地に向かわれ救援活動に携われました。これらの経験を踏まえまた予期せぬ災害時の行政の対応について解説して頂きました。

懇親会では、来賓の吉川敦校長・吉本幸治副会長より附設高校および同窓会の近況を伺いました。今回出席者は19名。昨年より3名増え、女性では初めて59回生の中島志穂さんが出席されました。その他の出席者は13～34回生。若い世代の支部会員の参加を何とか増やしたいと考えています。支部事務局は前山医院 院長前山英彦(33回生)氏が担当します。

◆第28回芙蓉医会（佐賀県在住医師同窓生の集まり）

平成29年2月3日(金)

佐賀市：おおしま 19：00～21：30

佐賀大学農学部 小林元太(31回生)教授に『佐大オリジナル清酒「悠々知酔」について』と題し講演して頂きました。この日本酒は農学部管理農地で収穫した

「ヒノヒカリ」と農学部で生成した「清酒酵母」を使用し生まれました。氏の指導の下、農学部に所属する学生達が今年は鹿島市の矢野酒造に通い協力して酒造りをしたそうです。その醸造過程について解説して頂きました。芙蓉会事務局は佐賀大学医学部内科学皮膚科講師 永瀬浩太郎(44回生)氏が担当し、今回も永瀬氏の献身的な参加依頼で43名（医師31、学生12名）の過去最高の参加者があり、大盛況の会となりました。次回は平成30年2月2日(金)同じ会場19時開始で予約しているそうです。ただし、金曜日は仕事の都合上出席が難しいとの意見もあり、土曜日開催も6月27日開催の世話人会で検討予定です。

◆29年度佐賀支部世話人会 6月27日(火)

佐賀市：くいもの屋わん佐賀駅前店 19：00～21：00

29年度の佐賀支部総会を8月26日(土)18：00～20：30 佐賀市：「おおしま」で開催することを決定しました。支部会では、福山満博(16回生、大川市福山商店・家具ギャラリーよろこび会長、大川ハゲます会長)氏が「大川木工の歴史」の演題で講演予定です。若い会員の皆様、佐賀支部会に是非参加して下さい。



28年度佐賀支部会



第28回芙蓉医会

支部総会とゴルフコンペで参加者募集中!

長崎支部長 **今村 由紀夫** (15回生)
 幹事 **福田 実** (32回生)

久留米大学附設高等学校同窓会長崎支部新入生歓迎会が平成28年7月7日ガレージ酒場で開催されました。34名(学生24名 社会人10名)が参加し新入生6名を歓迎しました。新入生の皆さんおめでとうございます。

久留米大学附設高等学校同窓会長崎支部総会が平成28年11月5日(土)に長崎市ホテルニュー長崎の中国料理桃林で開催され、48名が参加しました(平成26年度は44名)。初めに「長崎と十八銀行」松藤祐治郎(34回生)、「がん免疫療法がついに医療になり始めた」池田裕明(32回生)の講演を行い好評でした。続いて支部長が議長となり総会、その後懇親会を行い長崎支部活性化について話し合いました。学生の出席を増やすため平成26年度から学生参加費を無料にしており女性3名を含む17名の参加がありました(平成27年度は15名)。初めての参加者も楽しかったので次回以降も参加すると言っています。支部長:今村由起夫(15回生)、副支部長:碓 秀樹(24回生)、理事:安武 亨(24回生)、評議員:本村克明(33回生)、監事:田中邦彦(32回生)尾長谷 靖(33回生)、幹事:福田 実(32回生)山縣雅義(32回生)松藤祐二郎(34回生)、ゴルフ幹事:福島徹也(39回生)荒木 究(45回生)、学生幹事:北川瑞希(59回生)北川 光(61回生)です。次回は同会場平成29年11月11日(土)に同窓会を開催予定です(8月に案内送付予定)。参加希望の方は 幹事福田 実 FAX:095-819-7776 E-mail:mifukuda258@nifty.comまで。



長崎支部ゴルフコンペが平成28年11月6日(日)に大村湾カントリー倶楽部 ニューコースで開催されました。好天に恵まれ参加者7名が楽しみました。優勝とベストは村山直也(50回生)で3年連続優勝となりました。次回は平成29年11月12日(日)に開催予定、参加者募集中です。参加希望の方はゴルフ幹事福島徹也 FAX:095-857-7400 E-mail:tetsu8mf@yahoo.co.jpまで。



●熊本支部●

震災から1年余、復興にはまだまだ時間がかかります!!

熊本支部長 寺嶋隆則 (14回生)

平成28年4月14日、16日に、熊本地方を襲った大震災から、1年を経過し、表面的には、日常生活は、元の平穏を取り戻しつつあるように見えます。しかし、熊本城の建物、門、石垣などの深刻な被害、阿蘇外輪山の大規模な斜面崩壊による、阿蘇に通じる国道57号線の通行止め、九州自動車道の熊本ICから八代IC間の、特に益城町地区付近の、高速道の歪み、路面の段差の大きさ、橋梁の損傷を見ると、地震がいかに大きかったか、震災が如何に酷いものかが分かります。震災復興が困難で、まだまだ時間と多大な復興費が掛かると思われます。

◆平成28年度支部総会及び懇親会

この様な震災後の困難な状況の中で、平成28年10月2日(日)に、ホテル日航熊本にて、参加者58名(社会人35名、学生23名)で開催されました。高校から吉川敦校長、同窓会本部より田中利美、吉本幸治両同窓会副会長、松雪恵津男福岡支部長が参加され、ご挨拶も頂きました。今回の役員改選で、新しく、副支部長に川崎博(16回生)さん、支部理事に沢畑亨(28回生)さん、幹事に佐枝真次(34回生)さん、監事に江頭有朋(30回生)さん、学生幹事に掛地由貴人(61回生)君、山村稔朗(61回生)君に、新しく役員に加わって貰いました。

熊本の地に来て僅か1ヵ月で大震災を経験した6名の新入学生会員も、皆元気に参加してくれました。懇親会の締めは、恒例の校歌斉唱と牛島健一郎(10回生)さんの万歳三唱で、盛会の中で終わりました。

◆支部総会での講演会

2020年の東京五輪、パラリンピックに合わせ「世界はきっとひとつになれる」のメッセージを伝えるため、世界195カ国・地域をイメージした着物を作るプロジェクト「IMAGINE ONEWORLD KIMONO PROJECT」を進められている久留米市の呉服問屋「蝶屋」の3代目社長の高倉慶応(34回生)さんの講演がありました。講演の中で、パラオ共和国及びミャンマーをテーマにした2着を、日高美和(59回生)さん、守口文花(60回生)さんが、着用して登壇して、会場は華やかな雰囲気になりました。この活動での資金集めの苦労や、着物の図柄なども、夫々の国ごとに文化の違いや宗教により、色々な配慮が必要だと話されていました。この事業が成功するように皆様も応援お願い致します。



◆平成28年度支部卒業生祝賀会

平成29年3月17日、学生会員の主催で、熊本市内の银杏釜飯で、卒業生3名(4名欠席)を支部会員30名が集い、お祝い致しました。二次会は古川健美(29回生)さんのお店「ブルツクリンカフェ」で深夜まで歓談が続きました。



今年29年度の支部総会及び懇親会のご案内

日 時▶平成29年10月1日(日)
午後4時より
場 所▶ホテル日航熊本
講演会講師▶立津 央(40回生)
「ボストン留学記」
連絡先▶ユニ建築設計有限会社
村上尚彌(33回生)
TEL▶096-372-0004
URL▶<http://www.uni-a.net>

●福岡支部●

地元であり、支部のほかに、 5つのOB会が活発に活動しています！



福岡支部長
松雪 恵津男 (22回生)

福岡県内は、地元ということもあり、福岡支部のほかに、サロン・ド・附設in福岡、同北九州、同久留米、有明OB会、筑後OB会、朝倉OB会といった歴史の長い同窓生の集まりに加え、一昨年6月に発足した筑豊OB会、そして同年9月に発足した久留米OB会が活動しています。いずれの活動もそれぞれの会の幹事の方のご努力によって、支えられています。幹事の方から敬意を表すとともに、深く感謝申し上げます。

この1年間の活動状況は、以下の通りです。年2回の回生代表世話人会の開催に当たっては、その年度の当番幹事の皆さんに多大の協力を仰いでいます。

- 有明OB会
平成28年10月22日(土) だいふく
- 筑後OB会
平成28年11月19日(土) 日若屋
- 回生代表世話人会
平成28年12月17日(土) 平和楼・天神本店

- 久留米OB会
平成29年1月28日(土) マリターレ創世
- 甘木朝倉OB会
平成29年2月18日(土) ニュー松屋
- 筑豊OB会
平成29年3月29日(水) のがみプレジデントホテル
- 回生代表世話人会
平成29年4月15日(土) 平和楼・天神本店
- 福岡支部総会
平成29年7月16日(日) 西鉄グランドホテル

今年の福岡支部総会及び定期総会は、28回生の皆さんが当番幹事として、江頭修作幹事長のもと、本当に熱心に準備にあたってくれました。自らの仕事を抱えながら、会の運営、広告依頼、冊子作成など多くの役割を担ってくれました。心より感謝申し上げます。

なお、多くの先輩方によって支えられてきたサロン・ド・附設in福岡は、今年4月の273回例会をもって世話人が交代し、若い世代の世話人が中心となって内容、運営を変えていく計画です。長い間に亘り、お世話下さった先輩の皆様方には、改めまして御礼申し上げます。

年1回の支部総会に加え、県内各地の活動により同窓生のネットワークは充実しつつありますが、今後は、若い同窓生の皆さんのお役にたてるかが大きな課題と考えます。

●久留米OB会●

第2回も84名が出席し大盛況!!

久留米OB会幹事 **執行 謙二** (27回生)

2回目となる久留米OB会を平成29年1月28日に開催しました。1回目以降、久留米を始め福岡県南在住のOB名簿を整備したことや、案内を往復はがきで丁

寧に行ったこともあって、参加者は84名(第1回58名)と、大盛況となりました。

懇親会では講師としてお迎えしたお二方の興味深い

講演を楽しみました。今年3月にご退任された吉川敦 附設高等学校校長からは、「附設での九年間 一感謝と釈明」と題して、9年におよぶ校長としての想い出と、附設に対する熱いメッセージを頂きました。また、昨年4月にオープンした久留米シティプラザ館長を勤めておられる高宮知数氏(25回生)からは、「文化がまちを元気にする—久留米シティプラザの挑戦—」というテーマで久留米市の取り組みについて話を伺いました。

今回のOB会の特徴は、今年の福岡支部総会・定期



総会の当番幹事であった28回生以下の若手諸君の参加者が28名となるなど、若手諸君の積極的な参加が目立ったことです。今後とも、若手諸君が参加したいと思ってくれる会となるよう、例えば参加者の簡単なプロフィールを配布して、短かい時間でも交流が深められる工夫も考えたいと思っています。

※今後は「毎年1月の最終土曜日に久留米で集おう!!」ということになりましたので、**来年の1月27日(土)**を皆さん空けておいて下さい。改めて往復はがきでご案内します。



●筑豊OB会●

今年で三回目の筑豊OB会懇親会開催! 『KIMONO PROJECT』コラボ企画也大盛況!

筑豊OB会世話人 内藤 誠 治 (39回生)

第三回の筑豊OB会は平成29年3月29日に開催されました。昨年同様、福岡ゆたか中央病院の病院長であり筑豊OB会会長の野田晏宏先輩(14回生)、元同窓会会長の長谷川房生先輩(13回生)、同窓会副会長の田中利美先輩(20回生)、そして同窓会福岡支部長の松雪恵津男先輩(22回生)を始めとする総勢48名にて開催することが出来、盛会の内に終わりました。200名近い筑豊地区関係者の名簿も完成し、多くの諸先輩方にご出席頂いた他、新メンバーも加わり大いに盛り上がりました。

今回は、久留米市の呉服店「蝶屋」の代表取締役社長である高倉慶応先輩(34回生)が ゲスト参加されました。高倉先輩は、一般社団法人イマジン・ワンワールドの代表理事として、『KIMONO PROJECT』を推進しておられます。『KIMONO PROJECT』とは、2020年東京オリンピックの開会式等での採用を目指

し、世界196ヶ国の着物と帯を製作するもので、すでに日本政府の公式レセプションなどでも取り上げられています。

今回は、ベトナムとカナダをイメージした着物と帯を川口武壽先輩(25回生)のご令嬢で現在久留米大学附設中学三年生の川口真央さんとそのご友人がモデルとなり、ステージ上で披露して頂きました。いつもは、男性のみの同窓会ですが、今回は、着物の晴れやかさとお二人の可憐さもあいまって、いつもよりも華やかだ雰囲気の中で、つつがなく終えることが出来ました。今後も毎年の定期開催はもとより、様々趣向をこらしつつ、野田先輩や長谷川先輩がお話される「同窓会の繋がり」を様々な場面に活用していくことをみんなで考えながら、筑豊OB会を益々盛り上げていきたいと考えています。

サロン・ド・附設イン福岡のお世話を終えて



元同窓会副会長
一瀬 徹夫 (13回生)

本年4月をもってサロン・ド・附設イン福岡の幕を一旦閉めさせていただきます。

思い起こせば2006年10月、7回生の故山口先輩より、サロン・ド・附設イン福岡のお世話役を引き継ぎました。何故はっきり覚えているかというところ、サロン・ド・附設イン福岡のHPに入るPWにその年、その日を含めていたからです。

結果的には154回(講師11回生 重永征廣氏)から272回(講師31回生 竹下政敏氏)までの11年と数ヶ月の期間を担当させていただきました。一つの区切りとなる273回には、私が講師の立場でそれまでの会にかけてきた思いを話させて戴きました。

1回生の河原 牧男氏から、現役学生の62回生の笹栗誠氏までと幅広い年代の方々に、講師としてお話をさせていただきました。また、樋口元校長先生、古田先生、吉川前校長先生、名和教頭先生などといった、学校関係の方々にも登壇いただきました。最も多く登壇していただいたのは古賀輝人元同窓会長の4回でした。この場を借りて、改めてみなさまに御礼申し上げます。

思い出深いのは、平成20年度に「今仕事の現場では」のテーマで40回生台の同窓生に、現場の今の問題点をお話しいただいた回です。日頃は質問攻めにする先輩方も、親子ほど年が離れると若い回生の仕事の場

での変化に感心するばかりでした。

また、200回例会は市民公開講座という形式で開催しましたが、インターネットの参加申し込みはすぐに一杯となり、参加者は女性が多く、講師の42回生上田泰己氏の人気の高さを知りました。懇親会場も盛況で二つの部屋を使うということになりました。

206回は46回生出納正樹氏のお話でしたが、この日は平成23年3月11日。準備中に東北の大地震を知り、不安な気持ちを抱えながらのサロン・ド・附設イン福岡の開催となったことも記憶に残っています。

261回にお迎えしたのは、56回生山下華代氏。記念すべき、初めての女性講師で、医師国家試験終了後でした(勿論合格)、今後女性卒業生が増え、女性講師が益々増えてくると思います。

サロン・ド・附設イン福岡のお世話は8回生中村晃氏、20回生田中利美氏、28回生吉本幸治氏、他が手伝ってくださいました。あと、受付の江口信子さん、ソラリアホテルの石橋さんにお世話いただきました。

毎月の仕事は講師の方を探すことでした。同窓生に会うとすぐに講師をお願いする事が習慣となり、また何かの話題を耳に挟んだら、強引に依頼するという講師ハンターの目つきになりました。そのお陰で、附設同窓生が多くの業種、色々な地域での活躍を発見し、同時に人材の厚さを感じ、同窓生が校歌にも謳われている大使命を果たしていることを実感しました。

長い間、講師、勧誘、出席にご協力いただき、有り難うございました。

今後、274回からは若い42回生中島研氏、46回生出納正樹氏、54回生橋本智之氏が新しい形で会の運営を担当致します。是非、若返ったサロン・ド・附設イン福岡にお出かけください。

平成29年度定期総会及び福岡支部総会報告

幹事長 江頭 修 作 (28回生)

平成29年7月16日、数日前から始まった猛暑の中、久留米大学附設高等学校同窓会定期総会、福岡支部総会が、例年通り、西鉄グランドホテルで午後3時から開催されました。

同窓生317名、来賓8名が参加。325名が集い盛会となりました。まず、福岡支部総会が開催され、司会は幹事学年28回生椎葉裕君が務め、松雪恵津男支部長(22回生)の挨拶の後、岸哲司氏(22回生)が議長に指名され、議事進行されました。支部長から支部活動報告、佐々木郁夫前幹事長(27回生)から支部収支報告がなされ承認されました。今年度をもって松雪支部長が退任され、新支部長には実藤光二郎氏(26回生)が指名され、承認されました。

引き続き定期総会が開催され、川嶋文信会長の挨拶の後、高橋友作氏(19回生)が議長に指名され、物故者23名への黙祷の後、平成28年度活動報告、一般会計報告、特別会計報告、監査報告がなされ承認されました。続いて平成29年度一般会計予算案が承認され、定期総会は終了しました。



しばしの休憩を挟み、司会の椎葉君から今回の講演会の演者、沢畑亨君が紹介されました。沢畑君は東京大学農学系大学院林学専攻修士課程を修了後、コンサルタント業等を経て、平成6年から水俣市久木野ふろさとセンターの館長を務めており「都市生活者は森と棚田の夢を見るか? ~森と棚田のめぐみに力を~」の演題で講演しました。講演終了後、多くの先輩方から賞賛の声を戴きました。



午後5時から「鳳凰の間」に会場を移し、懇親会を行いました。松雪前支部長、川嶋会長、町田健新校長の挨拶の後、今回、28回生幹事江崎俊介君が社長を務める菊美人酒造から提供してもらった「菊美人」の樽で鏡開きを行い、吉川敦名誉校長の音頭で乾杯となり、懇親会はスタートしました。今回「放蕩息子の大使命 見ずや我らの附設愛」のスローガンのもと、28回生としては、何か今までにない新しい企画を考え、現役の附設高校生に登場してもらうことにしました。14名の学生が参加して、やんちゃだった28回生の在学当時に負けない、元気なダンスパフォーマンス、ロックバンドの演奏を行い会場を大いに盛り上げてくれました。

宴も後半となり、前日開催されたゴルフコンペの表彰をゴルフ担当幹事益田幸行君が行い、優勝は奇しくも来年のゴルフ担当幹事の29回生木下宏太郎君でした。

宴も終了間近となり、在学当時の生徒会長東治道君の指揮で校歌斉唱を行い、次期幹事長29回生田中健一郎君の発声で万歳三唱、幹事長の閉会挨拶で、懇親会は盛会のうちに終了しました。今回ご参加戴いた同窓の皆さん、広告にご協力戴いた皆さんに感謝申し上げます。



バタビアカフェにて

田中照章 (33回生)

PT. Asuransi Tokio Marine
Indonesia
(東京海上日動火災保険株式会社
インドネシア現地法人)
Finance Director
Sentral Senayan I 3rd & 4th Floor
Jl. Asia Africa No. 8 Jakarta 10270
Indonesia
tel: +62-21-572-5772
(Ext 5008)

2017年4月に インドネシアのジャカルタの現地法人に 着任して3カ月が経過しました。

自分は1990年に東京海上に入社し、国内法人営業部門、営業支援部門を経て2001年にNYへの海外転勤となりました。2006年に帰国後、法人営業、人事を経て今回はNYに続いて2回目の海外勤務となります。前は着任直後に9.11の同時多発テロを経験し、今回も世界各国でのISによるテロが続いている状況下での赴任ですので、緊張感を伴った赴任となりました。ジャカルタは特に危険を感じる場面があるわけではないのですが、やはり治安上の問題から街を歩けないという不便は感じます。体のなまりをゴルフで補っているといいたいところですが。

インドネシアはASEANでは最大のGDPを誇り、人口は約2億6千万人で中国、インド、米国につぐ世界第4位の大国です。ASEANの本部もジャカルタにあり、ジャカルタは高層ビルも多く立つ大都会と言えます(人口1千万人)。国民の9割近くがイスラム教徒で以下キリスト教、ヒンズー教が続きます。日本からのODAも多く、日本から多くの企業が進出してきており在留邦人もインドネシア全体で18千人を超えています。日本からは羽田空港、成田空港、関西国際空港から直行便が出ており7時間強のフライトです。

日本食を提供するレストランも多く、日本と変わらない値段で(現地の水準からすると高価)で高い品質の料理が楽しめます。日本食の水準ではアジアではバンコクに次ぐという人も多いです。イスラム教徒が多い国ですが、ビールは国内生産されており安価に楽しむことができます。一方アルコール度数が高いお酒は非常に高価で貴重です。お酒を持ち込めるお店も多く、自ら持ち込んで楽しんでいる人が多くいます。イスラム教徒が多い国ですが、豚肉を食べることができる店もあり、生活しやすい国であると感じます。

当地では日本人は好感をもって受け止められています。JKT48も現地の人にも人気で劇場は大いににぎわっているそうです。各県の県人会や各学校の同窓会も盛んに開催されており、飲み会やゴルフの懇親会、対抗戦が活発に行われています。附設高校同窓会はまだ見かけてませんが、昨年我が33回生が幹事となり附設高校同窓会東京支部総会を開催し、それを機に附設の縦横のつながりを深く感じましたので、ぜひ当地でも同窓生を見つけられればと思います。

リゾートであるバリへは行ったことがある方も多いと思いますが、ジャカルタは通っただけという方も少なくないと思います。渋滞が激しく観光ポイントが比較的少ない街であるのも事実ですが、オランダ統治時代の名残もあり、おいしい食事が楽しめるジャカルタに少しでも立ち寄ってもらえればうれしいです。



佐川 森彦 (43回生)

アメリカ合衆国・ボストンからの報告

22回生の中村先輩との同期の深野章君を介した不思議なご縁で、今回寄稿させていただくことになりました、43回生（中学21回生）の佐川森彦と申します。慶應義塾大学血液・感染・リウマチ内科（当時）から埼玉医科大学総合医療センター血液内科を経て、2015年4月よりアメリカ合衆国・ボストンにあるDana-Farber Cancer Instituteへ留学しておりました（2017年3月帰国）。

私の留学先はKenneth C.Anderson先生という多発性骨髄腫の世界的大家の研究室で、骨髄腫治療のbreakthroughとなった薬剤であるbortezomib、lenalidomideの基礎的データはこの研究室から出て、臨床の現場へ登場していきました。今回の留学において、私は多発性骨髄腫において、RRM1というDNA de novo合成に必須の酵素が及ぼす影響に対する基礎的検討および臨床応用を目指した研究を行いました。2年という短い期間であり、思うような成果は挙げられなかったものの、何とか仕事をまとめ上げて論文化しました。

ボストン及びその周辺にはHarvard University、Massachusetts Institute of Technologyを含め、世界のトップレベルの大学が林立しており、さらにMassachusetts General Hospital、Brigham and Women's Hospital、Boston Children's Hospitalなどトップレベルの病院が集まっています。これらの大学・病院へ全世界から医師、ポスドクが留学に集まり各分野の頂点を目指すべく切磋琢磨しています。留学する日本人の減少が危惧されている中でも、ボストンには日本人留学生が多数来ており、分野ごとのコミュニティも出ています。留学生向けの生活関連の掲示板などもあり、情報交換の場も豊富でした。自分の専門分野である血液、腫瘍の研究で留学中の人も多く、海外にいながらも、家族も含めてホームシックにならずに留学期間を過ごすことが出来たと思います。

同窓会報ですので、附設にまつわるエピソードの一つ挙げます。昨年11月に久留米大学病理学教室大島孝一教授が共同研究先へ訪問のためボストン来訪の際、留学中の血液内科医、病理医に集合がかかったのですが、その折50回生（中学28回生）吉田直裕君と約20年ぶりの偶然の再会を果たしたことです。彼は久留米大学外科、病理学教室を経て、Massachusetts General Hospitalに研究に来ていました（現在も留学中）。彼との繋がり、中学高校時代私が住んでいた久留米市内の同じマンションに彼もおり、家族ぐるみでお付き合いをしていました。7歳違いのため附設在校期間は完全に異なりますが、附設を介しての素晴らしいご縁を感じました。

自分自身の留学は、一般的に言えばかなり遅いタイミングだったと思います。留学を考えている方は30歳代前半～半ばまでに行くのが、その後もキャリアも鑑みると理想的かもしれませんが、自身としては遅くなったからこそ、学べたことも多かったのではないかと思います。留学希望がある方は、年齢を理由に諦めないで下さい。昨今のトランプ大統領によるビザ厳格化が話題になっていますが、少なくともJ1ビザは制限がかかっていませんのでまだ大丈夫かと思えます。





Start With Whyの著者 Simon Sinek 氏と

岡本達哉 (48回生)

SECOM PLC勤務

イギリス・ロンドンより

48回生の岡本達哉と申します。セキュリティのセコム株式会社に勤務しており、2017年5月からイギリス・ロンドンにあります現地法人に出向しています。2000年代後半のインド・ニューデリー駐在に続き、自身2度目の海外赴任となります。

アジアの新興国で目の当たりにした右肩上がりの成長や人々の活気や喧騒と比べると、ここイギリスは伝統と落ち着いた風格が漂う場所だと個人的に感じています。街の建築にしても雨後の筍のようにビルが建設されるのではなく、昔からある建物を外観はそのままに、内装だけ変えるなどリノベーションをしているので、趣きのある街並みが出来上がっています。

昨年のEU離脱の投票時ロンドン市民は残留派が多かったといわれています。「ロンドンには宗教や国籍に関係なく他者に対して、世界の中でも最もオープンな都市だ」という市民の声をよく聞きます。色々な国の人のコミュニティがあり、街を歩けば英語以外のさまざまな言語が飛び交っているの耳にします。小売店などレジでほぼ必ず交わす“Are you all right?”といった些細な会話や、公共交通機関でお年寄りや小さな子供連れに席を譲る光景を見ていると心がホッとします。私も帯同で来ている家族も異邦人のよう接し方を受けたことはなく、この都市が持つ寛容さを常々実感しながら過ごしています。

イギリスは「食事がちょっと。。。」という話をよく聞きますが、実際には美味しい食事を十分に楽しめます。色々な国の人が集まっているので、本場の料理が楽しめるレストランはたくさんありますし、パブで分厚いポテトフライとともに楽しむビールの味はまた格別です。数多の種類がある個性豊かなスコッチウイスキーも外せません。こちらにお越しの附設の同窓生の方はぜひお声掛けください。

私が高校2年生のときに刊行された男く祭の記念文集「カオス」の中で、フランス・パリの駐在生活について描かれてあった34回生の田中昭彦

先輩の寄稿を鮮明に覚えています。当時パスポートすら持っていなかった自分が、思いもよらずこうして海外で仕事をしているのは凄く不思議な気分になります。異文化体験を通した日々の新しい発見がやがては自分の成長につながっていくこと、これが個人的に感じる海外生活の醍醐味です。楽しいことも困難なこともある毎日ですが、試練の理想郷と違って前向きにこちらでの生活を送ってまいりたいと思います。

市内にある広大な Hyde Park は憩いの場



14回生 古希をむかえました。

藤井利雄 (14回生)

久留米大学附設高等学校 14回生は 戦後のベビーブームで
現在高齢少子化の責任年齢と言える
団塊の世代 受験戦争・地獄と言う言葉もあった 今の少子化と比べたら
友達が多いのは良いことだと思います
附設高等学校の願書締め切り 1週間前にその存在を知り
受験当日は初めて見る難しい問題にぐったりと疲れた
結果 補欠で入学できたことは 非常に嬉しかった
だから愛校心と感謝は他人に負けないと思っています
今は男女共学になっているが 女を知らない フォークダンス踊れない
男ばかりで気楽な服装 束縛されない自由な雰囲気は
自己中・熱中・自己責任に教育してもらった事に感謝しています
高校1年の6月に結核療養所跡に寮ができ 楽しい寮生活が始まりました
時が移り 満70歳より 前期高齢者医療に成ります 私は来年1月からです

☆美人薄命だが 男は悪人が早く死ぬ 免疫力高める不良長寿が良い
大藪誠也 (クラス幹事)

☆糞尿製造器になるな 人のためになって 死ぬ
思考回廊 大石亀次郎先生 (校歌作詞の恩師の言葉)

大石・大藪 大きいことは良いことだ
14回生は 不良長寿で 人の為になるように 生きています

古希に先立ち、
昨年同期会を開催しました。
2016年3月20日
同窓会久留米翠香園での写真
翌日ゴルフ



15回生 卒業50周年同期会

古澤生敏 (15回生)

同窓会副会長



我々15回生は、1964年東京オリンピックの年に入学し、旧兵舎の木造教室で学んだ定員150名の最後の世代です。当時は、西鉄大牟田からの通学組が生徒数の三分の一を占め一大勢力でした。現在と違い天神方面からの通学組は10名もいなかったと思います。

校歌にあるが如く修羅道を救うべく1967年3月附設高校を旅立ちました。

卒業後は学園紛争、バブル景気、金融破綻、リーマンショックと、人生後半は大方苦戦を強いられましたが、ここに修羅道に立ち向かい、人生の荒波を潜り抜けた猛者55名が、50年後の2017年5月20日3年間通った久留米の地に集結致しました。

久留米では、盆・暮に飲み会、ゴルフを開催、東京でも飲み会を開催し、それぞれ年に1～2度20名程度集まっているようですが、娑婆で元気で会えるのも此れが最後との思いから50周年同期会の開催に至った次第です。関東から11名、関西から2名の遠方組と残りは福岡県を中心に長崎、熊本、大分と各

県より集まり、総勢55名の参加となりました。

誰とは言いませんが、亀次郎先生並みに禿頭の方はやはり50年振りだと分かりづらく、白髪が多い一方、医者連中は、概ね髪が黒く髭を生やし血色が良い。合う顔、合う顔が懐かしく50年前の高校時代を思い出す次第でした。

時間が有れば膝を交えて話し合いたいが、立食で時間も限られ、互いに面談者も限られたであろうと推測します。本会合を切っ掛けに互いの親交が深まることを期待します。

2次会は30名程度集まり、その後3次会へと三々五々散って行きました。皆さんの御蔭で久留米の文化街も久しぶりに賑わったと思います。

翌日の久留米カントリーでのゴルフは、東京組2名を加え11名で戦い、不肖幹事の古澤が、大浦、田中両君のシングルクラスを差し置き、まぐれの優勝で世話の苦勞が報われました。

後日配布した個々人の写真は記者上がりの永尾君が名前入りで編集、式次第から名札、発送と手間のかかる事は緒方君、ホテル、2次会の手配、東京組の母校案内等は地元の坂井君、会計受付等は福井君、名司会は御存知の平田三郎君、東京組の取り纏めは楠田君と各人のご尽力により、50周年同期会も無事終了しました。

参加者各人の笑顔と会えて良かったの一言を聞き、幹事一同喜び苦勞も吹き飛んだ次第。

次回の再会は、古希か、オリンピック後かは今後の検討課題とし、皆さん健康に気をつけまたお会いしましょう。

23回生、還暦のこの春に 町田健君が母校の校長に就任

よし だ やす ひこ
吉田 泰彦

(高校23回生、中学1回生)

昭和32年2月26日生(60才)
附設中学校1回生、高等学校23回生
昭和54年一橋大学商学部卒業
同年に株式会社福岡銀行入行
現在同行代表取締役副頭取、兼務、株
式会社ふくおかフィナンシャルグルー
プ取締役執行役員

♪高良山下の学園に万朶の桜咲きそろい……

♪修羅道の世を救うべく……

見ずや希望の揺籃地♪

見ずや我らの大使命♪

平成29年4月22日、我々23回生の町田健君の母校校長就任を祝い、急な開催ではあったが20人の同級生が集まった。会の締めは江口徹君(原三信会病院副院長)、皆で久しぶりの校歌を歌った。(下の写真)中学・高校在学中は難しい言葉の意味も分からずに歌っていたが、改めて大石亀次郎先生がお作りになった歌詞の素晴らしさに感動した。

私達23回生のうち一クラス(45人)は、昭和44年4月(1969年)に設立された附設中学の第1回生である。前年に現在の正源寺山の一角に移転してきたばかりで、ピカピカの校舎であった。1回生の過半は、進学塾の走りであった「全教研」からの顔見知りであり、中学1回生の同窓会では、互いに小学生のような幼さを感じることもある。高校から3クラスが加わりA組～D組の4クラス編成になった。昭和50年3月(1975年)に卒業、当時の週刊誌大学合格発表の見出しに「彗星のごとく現れた久留米附設、」 「東大合格者数上位20校に久留米附設」等と報道された記憶がある。

23回生の同窓会が活発になり始めたのは卒業30周年(2005年)同窓会頃からで、その後、総会担当年次(2012年)、還暦と回を重ねてきた。これも偏に古賀善彦君(那珂川病院勤務)のお陰である。会社でも同じであるが、同期会・同窓会を継続的にやっていくためには名幹事が不可欠である。節目の同窓会以外にも何かに託けて集まることもあるが、これも全て古賀君のお世話のお陰である。

附設高校の歴史も、卒業回生ではこの3月で65回生(?)になる。東京・大阪では多くの卒業生が、産学官各界(企業や大学、官庁等)で活躍していることは周知のとおりである。地元では、医療介護の世界で多くの卒業生が存在感を示されている。私が勤務している地元金融機関にも多くの卒業生が在籍しているし、また福岡の経済界を見ると、地元を代表する企業で卒業生が中心的存在になっている。

我が母校は、平成17年(2005年)から高校で男女共学開始、平成25年(2013年)から中学でも共学となった。産業界ではICTの急速な進歩によりIoTやAIを活用したインダストリー4.0が、金融の世界では金融(finance)とテクノロジー(technology)が融合したFintechで個人の生活や社会の取引慣行が大きく変わろうとしている。このようなパラダイムシフト・パラダイムチェンジのなかで、福岡県久留米市野中町の附設中学校・高等学校から、今後ますます多彩な人材が輩出されていくことを期待したい。





榎原 孝 (29回生)

1986年朝日新聞大阪本社入社、東京労務部長などを経て、2014年から大阪管理部長



大阪雑感

大阪には背骨のような「台地」がある——。巨大地震で津波が大阪を襲っても、その上は大丈夫だという。赴任当初、防災関係の会議で聞いた。水の都・大阪は淀川の河口に広がる平坦な土地だと思っていた。大阪のどこに台地があるのか、実感のないままその話も忘れていた。

私は2012年の東京支部総会幹事団で広報を担当した際に、学校の近況報告の一環として、高良山近辺のぶらり旅紀行をブログにアップした。これ以来、カメラをもって街歩きをするのが趣味になった。(http://blog23.fusetsu-tokyo.com/?page=5) 大阪では单身、森ノ宮に住んでいる。大阪城天守閣を取り囲む広大な公園の南東側に位置する。大阪の「背骨」は自宅からそう遠くない場所にあった。

それは上町台地という標高20メートルほどの高台だ。地形図を見ると、南は大和川、住吉大社付近から、北に行くに従って高くなり、その北端、一番の高台に大阪城が築かれている。そこから法円坂、難波宮を過ぎて南東方面に歩いていくと、真田丸跡、真田山公園付近から千日前通りに向かってだらだらと下り坂だ。大阪駅や中之島周辺の平坦地にはみられない凹凸がこのあたりでは随所に確認できる。

縄文時代の大阪は、上町台地が大阪湾に突き出した半島で、その東は内湾(河内湾)だった。その後海面が下がり、内湾は淀川・大和川がそそぐ低湿地となり、台地西側の砂州の上に町が広がった。上町台地の北端は、淀川河口で、瀬戸内海と京都を結ぶ要衝。貿易港・堺への通過点でもある。東西と北を海と川、低湿地に囲まれ、南を守れば堅固な要塞となる重要な土地だった。飛鳥時代、奈良時代には副都として難波宮が置かれた。織田信長が一向宗と10年間激しい戦いの末に手に入れた石山本願寺は、実は大阪城本丸・二の丸周辺と推定されている(知らなかった)。大阪は小坂ともいい、もともと本願寺の寺内町だった。信長の死後、豊臣秀吉がその地に大阪城を築城し、各地から商人を住まわせて城下町として発展させた。

上町台地は古代からの記憶を残す母なる台地。そこから大川沿いに降りて大阪市内をぶらぶら歩くと一気に現代に戻る。商人の町、船場、北浜、中之島地区はバラ園などの緑もあるが、特に立派な石造りやレトロな建物が目に付く。江戸時代の天下の台所から、明治期以降の発展の面影として興味深い。特に中之島地区はこれまで官民協力して再開発・整備事業が進められてきた。大阪市中央公会堂、府立中之島図書館、日銀大阪支店など、重厚な建築物も多い。

その中之島の中央に、今年4月、中之島フェスティバルタワー・ウエストが完成、開業した(写真提供 朝日新聞社)。弊社が約10年をかけて旧社屋跡に計画し、14年から建設してきた地上41階、200メートルのタワービルだ。既設のフェスティバルタワーと対のツインビル西棟をなす。これまで大阪勤務者が一丸となって進めてきたプロジェクトだけにその完成を見ることができて感無量だ。昼間人口1万人のツインビルは今後も中之島の賑わいに大きな力となっていっだろう。

さて、大阪勤務も4年目となり、残された時間は少ないかもしれないが、街並みを眺めながらぶらぶらと歩いて大阪の謎を堪能したいと思っている。



井上 和久
(高校47回生)

東京大学工学部卒業後、2004年㈱ドリームインキュベータに参画し、インターネットモバイルコンテンツ部門のリーダーとして、日本を代表する大手ゲーム会社、モバイルプラットフォームへの経営戦略コンサルティングを担当。ベンチャー企業支援では、担当投資先㈱DLE(代表作「秘密結社鷹の爪」)の東証マザーズへの株式公開を実現。2013年、生まれ故郷の福岡で、㈱グッドラックスリーを設立し、代表取締役兼CEOに就任。代表作「さわって!ぐでたま」シリーズ300万ダウンロード突破。累計7億円超の資金調達。日本アントレプレナー大賞エンタメ(社会貢献)部門賞受賞。2017年ハウステンボスと共同開発した「エアリアルレジェンズ」をリリース。福岡から世界最高のモバイルアミューズメントパークを構築中。

福岡から世界最高の モバイルアミューズメントパークを構築中。

◆附設高校の思い出

男く祭の実行委員長を務め、文化面、エンタテインメント面での改革を行いました。振り返ると、男く祭での取り組みが、現在の起業家としての原点になっています。当時の詳細は、「井上論文」としてネット上に掲載しています。

<http://fusetsu.org/otoko28/inoue.html>

◆最近の活動①

エアリアルレジェンズ (スマートフォンゲーム)

ハウステンボスと共同開発し、2017年5月にリリースしました。スマホゲーム内に、実際のハウステンボスを再現してい



ます。4月26日ハウステンボスとの共同記者会見は、日経新聞、朝日新聞、産経新聞、Yahoo!ニュース、Social Game info等、テレビ5媒体、新聞7媒体、Web24媒体に取り上げて頂きました。

ユーザーレビューも、5点満点中、4点以上を獲得しています。気軽にダウンロードして遊んで頂きたい。

◆最近の活動②

人生のメソッド (企業ドラマシリーズ)

大賀薬局、英進館(筒井社長:附設先輩)の企業ドラマを制作し、地上波放送、YouTube配信しています。



シリーズ累計100万ビューに到達する見込みです。

福岡デジタル・ビジネス・コンテンツ優秀賞も頂きました。同窓生関連で、企業PRに、モバイル、コンテンツを利用したい方は、グッドラックスリーまで、ご一報頂けると嬉しいです。

定期総会報告

同窓会副会長 **古澤生敏** (15回生)

平成29年5月28日開催の理事評議員会(於 母校)での審議を経て、平成29年7月16日開催の定期総会(於 西鉄グランドホテル)にて下記のとおり審議・承認されました。

◆平成29年度定期総会

以下の議案が審議、承認されました。

1. 平成28年度活動報告

活動報告が中村和徳副会長より行われ、承認されました。

2. 平成28年度決算承認の件

古澤副会長より決算説明が行われ、伯川監事より監査報告が行われ、承認されました。

3. 平成29年度予算承認の件

古澤副会長より予算説明が行われ、承認されました。

4. その他

川嶋会長より「久留米大学創立90周年記念事業募金」に関して同窓会としてこれに協力し、2,000万円を目標とする募金活動を行いたい旨提案があり、承認されました。

◆平成28年度決算・29年度予算に関する補足説明

1. 平成28年度決算

①平成28年度一般会計収支決算書 (P.30参照)

(収入の部)

- 終身会費新制度分は、壹学年分増えた為前期比1,952千円増加
- 従来の終身会費は、払い込みが当年度で終了し前期比1,740千円減少
- 広告料収入は、前期比247千円増加し略予算通り
- 収入合計は、前期比435千円増加、予算比111千円増加といずれもプラスで落着
- 引き続き終身会費未納者への声掛けが必要(今春卒業の65回生からは終身会費全納)

(支出の部)

- 概ね予算内に落ち着くも会報費が予算比1,224千円増加(頁数の増とカラー頁増が主因)

- 前年比では、会報費(1,226千円増)東京事務所費(500千円増)等が増加
- 支出合計は、予算比1,859千円減少、前期比620千円増加

(当期収支差額ほか)

- 当期収支差額は2,241千円の黒字となり予算比1,970千円増加
- 終身会費収入2,670千円の全額を特別会計に繰出し、次年度繰越金4,988千円

②平成28年度特別会計収支決算書 (P.31参照)

- 当年度収入分を一般会計より繰入れた結果、次年度繰越金は前期比2,714千円増加の178,992千円

2. 平成29年度一般会計収支予算書 (P.32参照)

(収入の部)

- 終身会費旧制度による収入が前期で終了した為、前期分収入2,280千円が今期は0
- 今期予算は、従って前期比2,146千円減少の11,666千円で策定
- 今後収入は今期予算の11,500千円前後の見通し

(支出の部)

- 前期経費増の主因である会報は、コンパクトに纏める事を心掛け前期比424千円減で策定
- 終身会費新制度の導入により、今後は11,500千円前後の収支予算が組める見通しとなり、同窓会活動の一層の充実が望まれる

平成28年度 一般会計収支決算書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

(円)

費目	予算額	決算額	差異	備考
〔収入の部〕				
会費(入会金)	836,000	836,000	0	4,000円×209名
会費(年会費)	3,600,000	3,598,000	△ 2,000	500円×600名×11ヶ月 500円×599名×1ヶ月 △未収入500円×3ヶ月
会費(終身会費)	2,250,000	2,280,000	30,000	30,000円×76名64回生
終身会費新制度分	5,715,200	5,712,000	△ 3,200	800円×601名×11ヶ月 800円×600名×1ヶ月 △未収入800円×3ヶ月 △返還800円×68ヶ月(退学者3名分)
終身会費過年度分	300,000	390,000	90,000	30,000円×13名
広告料収入	1,000,000	972,500	△ 27,500	
寄付金	0	20,000	20,000	
雑収入	0	635	635	
預り金収入	0	2,600	2,600	会費等過大納入分
当期収入合計	13,701,200	13,811,735	110,535	
〔支出の部〕				
1. 事務費	2,590,000	1,935,991	△ 654,009	
事務消耗品費	30,000	0	△ 30,000	
事務備品費	50,000	0	△ 50,000	
事務委託費	1,200,000	1,200,000	0	事務員給与負担分、久留米大学附設中学校・高等学校後援会へ繰り出し
同窓会本部予備費	500,000	0	△ 500,000	
東京事務所費	600,000	600,000	0	東京事務所賃借料
通信費	150,000	112,089	△ 37,911	インターネット利用料83,459円切手・ハガキ他
印刷費	30,000	5,400	△ 24,600	
事務雑費	30,000	18,502	△ 11,498	
2. 事業費	9,840,000	9,634,776	△ 205,224	
(会議関連費用)				
理事会評議員会議費	550,000	442,404	△ 107,596	
拡大正副会長会議	400,000	292,294	△ 107,706	
総会関連支援費	200,000	318,710	118,710	
支部総会関連	300,000	182,150	△ 117,850	熊本・福岡・佐賀・東京・長崎・関西・中部支部
後援会との交歓会	30,000	6,000	△ 24,000	
回生世話人会議	890,000	733,910	△ 156,090	
役員活動費	100,000	33,600	△ 66,400	
(在校生等支援費用)				
生徒会援助費	450,000	105,300	△ 344,700	体育祭援助
部活援助費	400,000	261,700	△ 138,300	美術部30,000円 サッカー部30,000円 柔道部30,000円 軟式野球部30,000円 演劇部30,000円 剣道部21,900円 テニス部29,800円 バスケット部30,000円 水泳部30,000円
卒業記念品代	320,000	297,518	△ 22,482	ペーパーウェイト194個
進路指導費	700,000	547,360	△ 152,640	卒業生模擬試験経費援助124,000円 卒業生激励会経費援助423,360円
新人歓迎会補助	150,000	55,000	△ 95,000	
就職セミナー費用	750,000	655,339	△ 94,661	
ESS部海外大会出場費	250,000	125,225	△ 124,775	全国高校英語ダイバート大会出場のためのジャッジ依頼
(同窓会事業費)				
ホームページ管理	1,400,000	1,365,040	△ 34,960	サーバーハウジング費用64,800円 ウェブ名簿更新とホームページ管理費用1,300,240円
会報	2,700,000	3,923,573	1,223,573	会報誌(900部)の作成代、封筒印刷、発送料を含む
思考廊関連引当	100,000	100,000	0	
慶弔費	100,000	141,193	41,193	吉川校長送別会74,700円 中野三敏氏文化勲章お祝い50,515円
事業費雑費	50,000	48,460	△ 1,540	
3. 予備費	1,000,000	0	△ 1,000,000	
当期支出合計	13,430,000	11,570,767	△ 1,859,233	
当期収支差額	271,200	2,240,968	1,969,768	
4. 特別会計へ繰入(繰出)	△ 2,550,000	△ 2,670,000	120,000	旧制度終身会費分
前年度繰越金	5,416,704	5,416,704	0	
次年度繰越金	3,137,904	4,987,672	1,849,768	

※28年度末 会費・終身会費未収 3,900円(29年4月3日入金済み)

1年	211名	入会金なし2名	3月より退学1名
2年	199名		
3年	191名	会費なし1名	
合計	601名		

財産目録

普通預金(福岡銀行 久留米営業部)	4,986,927円(内、預り金2,600円を含む)
普通預金(筑邦銀行 本店営業部)	0円
総合口座(ゆうちょ銀行久留米合川郵便局)	0円
定期預金(福岡銀行 久留米営業部)	2,500,745円(引当金および利息)
計	7,487,672円

平成28年度 特別会計収支決算書

(平成28年4月1日～平成29年3月31日)

〔収入の部〕		(円)	〔支出の部〕		(円)
前年度繰越金	176,277,998		貸金庫使用料	25,920	
一般会計より繰入	2,670,000		前期末終身会費預り金	89,660	
	(30,000円×89名)		次年度繰越金	178,991,589	
雑収入	159,171		計	179,107,169	
計	179,107,169				

財産目録	
普通預金(筑邦銀行本店営業部)	3,085,345円
定期預金(筑邦銀行本店営業部)	155,894,027円
定期預金(福岡銀行久留米営業部)	20,012,217円
計	178,991,589円

終身会費納入状況

回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率	回生	完納者	納入率
1	60	101名 59%	17	59	195名 30%	33	177	209名 85%	49	152	201名 76%
2	80	141名 57%	18	59	195名 30%	34	185 (1)	217名 85%	50	134	200名 67%
3	67	135名 50%	19	73	205名 36%	35	158	209名 76%	51	157	202名 78%
4	74	153名 48%	20	54 (2)	209名 26%	36	175	209名 84%	52	145	203名 71%
5	63	159名 40%	21	74	211名 35%	37	158 (1)	199名 79%	53	163	199名 82%
6	65	159名 41%	22	77 (2)	229名 34%	38	154	210名 73%	54	147	204名 72%
7	93	162名 57%	23	62	183名 34%	39	166	202名 82%	55	136	197名 69%
8	84	171名 49%	24	72	214名 34%	40	123 (1)	201名 61%	56	139	205名 68%
9	61	149名 41%	25	92	220名 42%	41	87	205名 42%	57	143	199名 72%
10	76	150名 51%	26	165	223名 74%	42	105	206名 51%	58	147	198名 74%
11	63	159名 40%	27	156	201名 78%	43	109	208名 52%	59	149	210名 71%
12	59	154名 38%	28	172	217名 79%	44	117	197名 59%	60	131	199名 66%
13	74	165名 45%	29	159	215名 74%	45	132	194名 68%	61	152	201名 76%
14	54	145名 37%	30	176	212名 83%	46	128	195名 66%	62	138 (1)	203名 68%
15	51 (1)	161名 32%	31	159	217名 73%	47	119	194名 61%	63	137 (4)	199名 69%
16	58	208名 28%	32	174	224名 78%	48	135	197名 69%	64	132 (76)	200名 66%

2017年3月31日現在

同窓会終身会費	会計報告
完納会員(3万円)	7,333(89)名
分納会員(2万円)	10(0)名
(1万円)	52(0)名

※終身会費は26回生が卒業する年に新たに設けられました。納入率が大きく変化しているのはそのためです。
終身会費未納の方は、是非下記の口座にお振込みくださるようお願い申し上げます。

〇振込先 **ゆうちょ銀行** 口座記号: **01750-7** 口座番号: **54988**
久留米大学附設高等学校

【注】振込人の最初に回生番号を入れてください
(見本: 15フルサワタカトシ)

平成29年度 一般会計収支予算書

(平成29年4月1日～平成30年3月31日)

(円)

費 目	前年度決算	当年度予算	差 額	備 考
〔収入の部〕				
会 費 (入 会 金)	836,000	844,000	8,000	4,000円×211名
会 費 (年 会 費)	3,598,000	3,691,500	93,500	500円×615名(211+210+194)×12ヶ月 前年度分500円×3名
会 費 (終身会費)	2,280,000	0	△2,280,000	
終身会費新制度分	5,712,000	5,830,400	118,400	800円×615名×12ヶ月 前年度分800円×3名
終身会費過年度分	390,000	300,000	△ 90,000	800円×95ヶ月返戻
広 告 料 収 入	972,500	1,000,000	27,500	会報
寄 付 金	20,000	0	△ 20,000	
雑 収 入	635	0	△ 635	
預 り 金 収 入	2,600	0	△ 2,600	
当 期 収 入 合 計	13,811,735	11,665,900	△2,145,835	
〔支出の部〕				
1. 事務費	1,935,991	2,260,000	324,009	
事 務 消 耗 品	0	10,000	10,000	
事 務 備 品 費	0	40,000	40,000	
事 務 委 託 費	1,200,000	1,200,000	0	事務員給与負担
同窓会本部予備費	0	200,000	200,000	
東 京 事 務 所 費	600,000	600,000	0	東京事務所賃借費
通 信 費	112,089	150,000	37,911	インターネット利用料、切手・ハガキ等
印 刷 費	5,400	30,000	24,600	
事 務 雑 費	18,502	30,000	11,498	諸手数料
2. 事業費	9,634,776	10,230,000	595,224	
(会議関連費用)				
理事会評議員会議費	442,404	500,000	57,596	旅費、食事代
拡大正副会長会議	292,294	300,000	7,706	旅費等
総会関連支援費	318,710	400,000	81,290	総会予備費、講師旅費
支部総会関連	182,150	300,000	117,850	支部支援、旅費
後援会との交歓会	6,000	30,000	24,000	懇親会
回生世話人会議	733,910	600,000	△ 133,910	
役員活動費	33,600	100,000	66,400	
(在校生等支援費用)				
生徒会援助費	105,300	450,000	344,700	体育祭、文化祭他
部活援助費	261,700	400,000	138,300	30千円 13部活
卒業記念品代	297,518	350,000	52,482	ペーパーウェイト
進路指導費	547,360	700,000	152,640	浪人生向け模試、激励会
新人歓迎会補助	55,000	150,000	95,000	
就職セミナー費用	655,339	650,000	△ 5,339	
ESS部海外大会出場費	125,225	150,000	24,775	
(同窓会事業費)				
ホームページ管理	1,365,040	1,400,000	34,960	
会 報	3,923,573	3,500,000	△ 423,573	
思考廻廊関連引当	100,000	100,000	0	
慶 弔 費	141,193	100,000	△ 41,193	
事業費雑費	48,460	50,000	1,540	
3. 予備費	0	1,000,000	1,000,000	
当 期 支 出 合 計	11,570,767	13,490,000	1,919,233	
当 期 収 支 差 額	2,240,968	△ 1,824,100	△ 4,065,068	
4. 特別会計へ繰入(繰出)	△ 2,670,000	△ 300,000	△ 2,370,000	旧制度終身会費分
前 年 度 繰 越 金	5,416,704	4,987,672	△ 429,032	
次 年 度 繰 越 金	4,987,672	2,863,572	△ 2,124,100	

久留米大学附設高等学校同窓会 平成28・29年度役員名簿

役職名	支部名	回生	氏名
顧問			
	福岡	8回生	井手和英
	東京	8	渡辺望稔
	福岡	10	古賀暉人
	福岡	13	長谷川房生
会長			
	東京	19回生	川嶋文信
副会長			
	福岡	15回生	古澤生敏
	東京	19	高橋友作
	福岡	20	田中利美
	東京	27	中村和徳
	福岡	28	吉本幸治
理事 (23名)			
	関西	5回生	井手口誠思
	山口	14	原好弘
	佐賀	17	三根茂
	中四国	16	近藤治幸
	東京	19	小田恵介
	福岡	19	天本敬吾
	大分	19	藤原公司郎
	北海道	20	檀浦龍二郎
	福岡	20	橋本和幸
	東京	20	安部政信
	東京	21	砂場泰浩
	中部	21	石井三記
	福岡	22	松雪恵津男
	東京	22	中村尚昭
	福岡	22	岸哲司
	長崎	24	安武亨
	東京	26	牛嶋啓二
	福岡	26	実藤光二郎
	東京	28	高木裕康
	熊本	30	江頭有朋
	福岡	34	秋本丈司
	校内	23	赤池俊信
	校内	45	阿部健太郎
監事			
	福岡	13回生	一瀬徹夫
	福岡	15	伯川志郎
支部長			
	熊本	14回生	寺嶋隆則
	山口	14	原好弘
	長崎	15	今村由起夫
	佐賀	17	三根茂
	中四国	19	今田忠則
	東京	19	小田恵介
	大分	19	藤原公司郎
	北海道	20	檀浦龍二郎
	関西	23	甲斐田郁夫
	中部	21	石井三記
	福岡	26	実藤光二郎

役職名	支部名	回生	氏名
評議員 (51名)			
	福岡	1回生	隈正之輔
	福岡	3	安恒好太郎
	福岡	4	丸林茂夫
	福岡	8	松平信昌
	山口	10	原好弘
	福岡	11	重永征廣
	関西	12	西原昭義
	福岡	13	小牧徹志
	東京	14	久保田徹
	熊本	14	寺嶋隆則
	福岡	15	平田三郎
	福岡	16	中野博
	福岡	17	武田由照
	福岡	18	村岡和彦
	佐賀	18	太田勘明
	福岡	19	横山晴明
	東京	20	山下喜弘
	関西	20	山本伸一
	北海道	20	西見寿博
	福岡	21	小林隆利
	関西	21	横山俊祐
	関西	21	甲斐田郁夫
	福岡	22	山口博徳
	福岡	23	江藤宏
	東京	23	吉田清隆
	福岡	24	下川敏弘
	福岡	25	宮原信孝
	福岡	26	井本公重
	福岡	27	執行謙二
	福岡	28	岡村和彦
	中四国	28	田代聡
	福岡	29	木下宏太郎
	東京	29	日高雄三郎
	福岡	31	森田昇
	長崎	33	本村克明
	福岡	34	永田八栄
	中部	35	平田克弘
	福岡	37	木下明
	東京	39	福山泰平
	福岡	39	古賀篤篤
	福岡	42	楠田大蔵
	東京	47	浅枝謙太
	東京	50	山口雅彦
	東京	51	大津良太
	東京	51	福島智史
	東京	54	千代田武大
	福岡	56	大澤めぐみ
	福岡	57	足達咲希
	東京	58	中島英恵
	福岡	58	山下華代
	東京	59	尾家杏奈

(敬称略)

回生代表世話人

福岡支部回生代表世話人			
回生	氏名		
1			
2	石橋義昭	中村幸孝	
3	安恒好太郎	大場清隆	
4	日野俊二	黒岩貞治	
5	小泉隆一	高木俊夫	
6	野田尚一	小吹学	
7	松本保正	大江裕之	
8	近藤豊	木下兼吉	
9	城戸英喜	永野盛文	
10	橋本里明	江上正夫	
11	今本克己	重永征広	
12	大塚哲也	梅野正裕	
13	荒尾清	小江俊行	
14	大藪誠也	上村修一	
15	福井英二	古澤生敏	
16	中河原哲朗	箱田啓樹	
17	赤岡和彦	福山明	
18	村岡晴明	山口浩生	
19	横山和幸	竹内一平	
20	橋本元史	高島光行	武俊行
21	一ノ瀬司	松雪惠津男	
22	古田善彦	大野康	
23	古賀敏弘		
24	下山川佳秀	矢加部浩一	
25	実藤光二郎	吉田智	
26	佐々木郁夫	船津和宏	
27	江頭修作	岡村和彦	
28	猪飼秀隆	箱嶋雅敏	
29	佐藤茂	古村尚	
30	森田昇	竹下政敏	
31	坂田敬	東晃一	
32	枝國源一郎	渡邊曉	
33	秋本丈司	永田八栄	
34	津福一宏		
35	眞崎義憲		
36	平野長暁		
37	富田憲嗣	小林要慈	
38	時津高俊	藤野恭誠	
39	兼行孝幸	古賀哲明	
40	川野武志	富永泰輔	
41	中島研	楠田大蔵	
42	陣内幸史郎	池田昌太	
43	本江嘉将	花吉哲芝	
44	岡本慎太郎	橋本道成	
45	出谷善昭	小原尚利	
46	熊谷善昭	山口剛弘	
47	北島皓興		
48	森山裕司		
49	熊丸陽亮		
50	植高貴寛		
51	千代田明久	池辺健太	
52	佐藤孝志		
53	橋本智之	宮原敏	
54	井上朝雄		
55	大澤めぐみ	岩尾和紀	
56	足達咲希	中島孝輔	
57	山下華代	渡邊翔太郎	布花原麻貴
58			
59			
60	小島尚	村上龍之介	
61			
62	笹栗誠	田中雄士	
63			
64			

東京支部回生代表世話人			
回生	氏名		
1			
2	加藤勝文	一郡透	
3	野田隆昭		
4	佐々木進	柳昌憲	
5	山口厚三	塚本忠敬	
6	山内盛光	鹿毛剛	
7	大石弘利	武藤正之	
8	渡辺望稔	井樋克之	
9	星野英東	戸澤真也	
10	稲田昌秀	佐伯信雄	
11	橋本雄二	小嶺敏郎	
12	林章		
13	阿志賀雄二	櫛山寿夫	
14	久保田徹		
15	楠田宙生		
16			
17	中本祥一	安永裕相	
18	栗野友作	藏國友秀	昭世
19	高橋政信	太田篤	
20	安部泰浩	大隈茂	
21	砂場尚昭	橋本良一	
22	中村清隆	吉田繁美	
23	吉田力	田中賢司	
24	斉藤浩一	中島崇博	
25	牛嶋啓二	徳永博基	
26	松本宏敬	古川幸稔	
27	堀元隆司	高木裕康	
28	大口智文	日高雄三郎	
29	唐沢達信	坂本格	
30	大村和範	北島誠也	
31	佐藤正一	内山修造	
32	木内大	吉開章勝	連治
33	阿部高士	工藤宏記	
34	小宮山郁太郎	高尾野健	
35	堀達也	眞栄城正	
36	松本義久	洞孝司	
37	鶴野登志博	植木正光	
38	福山泰平	古門成年	
39	榎下健司	加藤寛	
40	井口貴仁	相部任宏	
41	見満周宜		
42	深野章	山口桂右	
43			
44			
45	中村雄一郎		
46	伊藤周	宮田知明	
47	光成洋二	浅枝謙太	中嶋雅宏
48	平川翔		
49	牟田秀俊	平進之介	
50	山口雅彦		
51	大津良太	行時直也	
52	喜多村健人		
53	梅井正彦	大神征爾	
54	田邊裕貴	椿聡一郎	
55	山本航平	五十嵐丈鑑	
56	安丸佑平	光安麻里恵	
57	宮尾采佳	石田大典	
58	廣兼佑亮	中島英恵	
59	平山いづみ	東峻太	
60	畔柳駿一	井手俊晴	三原裕介
61	興島仙太郎	山本舜介	
62	川野秀太郎	坂口華奈子	
63	上田弦		
64			

職域代表世話人	
福岡銀行	
27回生	為永和博
福岡市役所	
33回生	本村和也
九州電力	
37回生	平野長暁
西日本鉄道	
36回生	上野潔
福岡県庁	
38回生	豊村謙治



牛嶋 啓二 (26回生)

理事
東京支部副支部長

第21回就職セミナーは 過去最大の参加者数に！

21年目となる名物学生支援活動である同窓会就職セミナー、今年も2月と4月の2回にわたり神田の学士会館で多くの学生の参加を得て就活支援を行いました。

各支部長のご協力もあり、特に関西地区からの参加者が増えてきています。今後も関東地区以外からの学生参加を待っています。また、新社会人、内定者が多く集まってくれるようになり、後輩の面倒を見るサイクルが出来つつあります。来年も同時期に2回の就職セミナーを予定していますので、皆さんのご参加お待ちしております。



2017年2月5日(日曜)

関西地区から6名、九州地区から1名、また附設OBのご子息9名を含む学生53名と若手社会人20数名が集まり過去最大の参加者となり、就活に向けてのモチベーションアップを図った。



2017年4月29日(土曜)

関西地区から5名、ご子息2名を含む就活中の学生14名に参加してもらい、若手社会人がそれぞれの学生が抱える悩みや課題に手厚く面倒を見た。

2017年度新人歓迎会 明るく楽しく『健全に』行われました！

大津良太 (51回生)

- 日 時：2017年6月16日(金) 19時～21時半
- 場 所：新宿駅東口 京吉
- 参加数：65回生30名、64回生12名、同窓会役員等7名 合計49名

新人歓迎会は、例年6月ごろに、上京したての学生同士の懇親、東京支部、同窓会からの情報発信（支部総会、就職セミナーなど主要イベントの告知）を目的に、大都会東京の一年先輩である「大学二年生」に幹事をお願いし、開催しております。



同窓会役員の皆様

今年の新人は平成10年（1998年）生まれ。1998年といえば、サッカーW杯フランス大会に日本が初出場し、現ソフトバンクホークスの松坂が甲子園決勝でノーヒットノーランを達成し、「キレル」「だっちゅーの」「ビビビときました」などが流行語大賞を獲得し、郵便番号が7桁になった年です。

会は例年通り、小田東京支部長の乾杯に始まり、各テーブルに分かれての懇親、同窓会関連情報のアナウンス、川嶋同窓会長からの激励の言葉、そして、校歌斉唱、万歳三唱と滞りなく、終始明るく楽しく『健全に』行われました。

お店選び、連絡など活躍してくれた64回生古川敦大くん、当日の出欠管理や会の進行を手伝ってくれた65回生平松昂くん、ご協力ありがとうございました。



川嶋会長を囲んで

進路講座

平成28年度

昨年も15名の先輩(卒業生)講師により進路講座が開催されました。
その感想文の一部を抜粋して紹介させていただきます。



久留米大学附設
同窓会の方々・講師の先生方

本当にありがとう
ございました

久留米大学附設 中学校46回生
高等学校67回生
一同

第1回 10月1日

- 【第一講座】 光安 麻理恵 先生
将来の進路を考えるにあたって
～農業コンサルタントの例～
- 【第二講座】 渡邊 暁 先生
企業で働くこととはどういうことだろう?
そのためにやっておくべきこと
- 【第三講座】 本村 和也 先生
住みたい・行きたい・働きたい
アジアの交流拠点都市福岡
～福岡市の環境との調和に配慮した
都市計画について
- 【第四講座】 古賀 克重 先生
医療過誤訴訟・集団訴訟と弁護士の役割
- 【第五講座】 平田 智毅 先生
福岡空港の機能充実を通じた地域振興、
福岡県の発展への
行政の役割と可能性について
- 【第六講座】 松石 昌典 先生
教育・研究職の実際
食品科学者・農学系研究者の場合
- 【第七講座】 永田 一彦 先生
なぜ医者になるのか?
開業医は何をするのか?

第2回 11月26日

- 【第一講座】 田代 夕貴 先生
進路の決め方、迷い方
- 【第二講座】 大塚 綾乃 先生
メーカーで研究をする楽しさ
- 【第三講座】 大和 浩 先生
その場では感謝されない医者、
産業医のお仕事と魅力
- 【第四講座】 松藤 和博 先生
或る裁判官の一生
- 【第五講座】 益田 詩穂里 先生
日本銀行の仕事と
進路選択の考え方について
- 【第六講座】 神本 秀爾 先生
人文科学系の教員・研究者の役割：
トリックスターとしての文化人類学者
- 【第七講座】 内山 明彦 先生
外科勤務医としての三十年

大和 浩

先生 (27回生)

産業医科大産業生体科学研究所教授

その場では感謝されない医者、産業医のお仕事と魅力

講座のまとめ

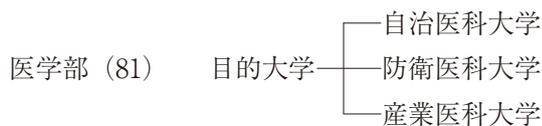
◆大和先生について

- 産業医科大学 → 呼吸器内科
大学病院で重症患者を治療 (じん肺など)



予防医学……病気になるのを未然に防ぐ

- 産業医科大学とは



- 産業医とは……労働者の健康管理などについて専門的な立場から指導、助言を行う医師



◆労働衛生の3管理

① 作業管理

有害物質の影響や作業負荷を軽減するような作業方法を実施しているか管理する

- ▶ 保護具の使用など

② 作業環境管理

労働者が安全に健康的に働けるように職場の環境を整えること

- ▶ 労働設備の点検
- ▶ 粉じんのための局所排気
- ▶ 解剖学実習室のホルムアルデヒド対策
⇒ 解剖台下に局所排気装置
- ▶ 石綿(アスベスト)
→ 断熱材 吸い込むと有害 ⇒ 人工鉱物繊維
→ 有害性を証明し開発STOP

③ 健康管理……労働者個人の健康状態を健康診断

- ▶ 過重労働の防止

- ▶ 非感染性疾患 (生活習慣病)

⇒ 原因 { 運動不足 → ウォーキング・禁煙
喫煙 忙しい社会人が運動できる環境を職場に作る

◆喫煙対策

- ▶ 健康日本21 → たばこを吸えない環境を作る

{ ニコチンパッチ、ガム
喫煙所を外に配置

- ▶ タクシーの禁煙化

飲食店の禁煙化 → 居酒屋はたばこから発生するPM2.5が蔓延している



全面禁煙の法律が必要

- ▶ 最近の健康管理

健康の増進 + 健康の保持



高齢の労働者が増加



介護を受けなくてすみ、労働適応能力の高い人を増やす

文責：高1A 寺園千夏



書記の感想

大和先生の講座を通して、初めて産業医という職業を知った。患者さんを診て病を治そうとする臨床医師とは異なり、労働者が病気になることを未然に防ぐ仕事。大和先生は、禁煙に力を入れていらっしゃって、まだタバコが公共の場で吸われていた時代に、診察室に禁煙を呼びかける禁煙啓発ポスターを貼り、また、職場に喫煙ルームを作り、そこにもポスターを貼り。気軽にどこでもタバコを吸えない環境作りをし、環境を変えてしまうことが禁煙への近道になる、ということに納得した。「環境を変えることが人の行動を変える」という言葉が印象に残った。また、産業医の仕事として健康増進もあり、「産業医が手本を示すことが重要だ」と、仕事終わりに自転車を漕いでから帰宅な

さっていると聞き、他人に言うだけではなく、先生自身も実践していらっしゃり、凄いと思った。また、短時間の運動でも、繰り返すことで、長時間続けて運動した時と変わらないくらいの効果が得られると聞き、少しずつでも時間があるときに運動をしようと思った。

「臨床医師は医師と患者の『1対1』の関係だけど、私は『1対1億人』の感覚で仕事をしている」とおっしゃっていて、多くの人々を対象にする産業医という仕事にも魅力を感じた。私が知っている職業は、この世にある仕事のほんの一部であることを実感した。これまで以上に視野を広げていく必要があると思った。

文責：高1B 鶴田絢子

僕は今まで産業医という職業を知らなかった。そのため講義を聞くまで、普通の臨床医とどのように違うのか疑問に思っていた。実際に話を聞くと、その二つは全く異なったものだった。産業医は臨床ではなく、予防医学というものをしていて、それは、病気になってから治療するのではなく、病気になる前に患者の周囲の環境を変えて予防するというものだそうだ。大和先生は其中でも運動と喫煙のことについて話して下さった。運動量を増やしたり、禁煙を成功させたりするためには環境作りが大切だそうだ。例えば、運動だったらすぐ近くにトレーニングルームを作ったり、喫煙してもいい場所を不便にしたりする、といったこ

とだ。このような少しのことでも生活習慣は変わっていくものなのだなと感心した。

産業医はその場では感謝されないが、研究から法律やガイドラインが改正され、国家に貢献できる仕事だと先生はおっしゃっていた。産業医の人たちのおかげで自分たちは健康に生活することができるということに気付かされた。また、医者は手術などしなければいけないので敬遠しているところがあったが、医者にもさまざまな種類があり、それぞれが人々の健康を考え、生活を保ってくれているのだと思った。

文責：高1E 吉浦遼介

今回講義をしていただいた大和先生の職業である産業医について、講演していただく前は、正直どのような職業か漠然としか分かりませんでした。ただ、講演

の中で、大和先生が実際に取り組んでこられた、解剖台の改良をはじめとした研究の内容を聞くにつれ、白衣を着ない医師、その場では感謝されない医師、そして一人ではなく一億人を対象とした医師という、自分の思い描いていた医者像とは大きく離れた産業医という職業への理解がより鮮明になりました。禁煙活動については、そもそもこれも産業医の範囲なのかというところで驚きだったのですが、ニコチンバッジやニコチンガムなど初めて見るものも多く、禁煙にもたくさん方法があるのだということが、未成年ながら思い知らされました。ただ、裏を返せば、それだけ禁煙できずに悩んでいる人がいるということで、世代間のギャップかもしれませんが、まだ喫煙という概念のな



い私からすると、これもまた驚きでもあり、不思議でした。加えて、普通の医者とは異なるからこそ得られる産業医の魅力、例えば健康の保持、増進の面により携わることができるという点や健康を推進する自分にも当然のことながら恩恵が回ってくる点に、とても惹かれました。どうしても日常生活の上で、普通のお医

者さんに接する機会しかなく、医者といえば白衣と考えてしまっている私たちの世代に、産業医という新たな選択肢を教えていただいたことが、何よりの収穫でした。今後の進路を考える上で、今回の講演を大いに参考にさせていただきたいと思います。お忙しい中、本当にありがとうございました。 **文責：高1E 柴田菜緒**

益田詩穂里 先生 (56回生)

日本銀行金融機構局

日本銀行の仕事と進路選択の考え方について

講座のまとめ

●講師について

高校時代の生活は、授業は集中し、テスト前には徹夜もするほど努力されていた。

部活は入らず過ごしたそうだ。

血が苦手な医者には向いていないという事で文系に進むことを決めた、という事だった。

現役で東大文Iに合格し、大学時代はラクロス部のマネージャーを真剣に打ち込んでいたそうだ。

日本銀行に就職したいという思考に至ったのは、日本銀行のOBの方からリーマンショックの時の武勇伝を聞き、その仕事に憧れを抱くようになり自分が誇れる職はこれだと思ったそうだ。無事その内定をもらうことができ、2012年に金融市場局（金融政策実現のための現場部署）に配属された。

翌年には沖縄の那覇支店に転勤し、那覇での経済調査を行った。

その後、金融機構局（対銀行で経済状況を把握する部署）に配属され、現在に至る。

●日本銀行について

日本銀行は主に日本銀行券（紙幣）の発行、物価の安定、金融システムの安定を行う。あくまでも認可法人であり、公務というわけではない。

全国の32に加え、海外にも支店がある。

益田先生の感じる日本銀行に勤務する長所は、ここから見える世界は広いものであり自ずと視野は広がる、そしてここでの仕事は他ではできないという独自性がある、さらに勤務時間、休暇等々のワークライフバランスが良いという点である。それに反し、結果が見えにくい、そして監視や規制を主にするという二点においてやりがいは薄いという事だった。



●講師の教訓

《先輩を活用する》

職場や学校などの先輩の知恵は自分にとって有益となるためそれを借り行動につなげることが大事である。

《出来るときは出来るところまで最大の努力をし、できないときに無理をしない》

自分のやった今までの努力の積み重ねはいつか大きな機会につながり、大きな人々にも繋がるため努力を怠ってはいけませんが、精神的又は肉体的な無理はするべきではない。

《広い世界を知る》

先生自身、東京という人やモノが溢れかえる場所で自分の住む世界の狭さ、そして自分が努力して積み上げた知能は価値があるのだという自信につながったという。つまり視野を広げることで見えてくる新しい世界が存在するという事だ。

進路を決めるにあたって、大事なことは、「これが自分の人生なんだ!」と胸を張って言えるような選択をすること、と先生はおっしゃっていた。

文責：高1E 岩永大輝

書記の感想

私は文系を志望している。だが、そこから先が全く決まらない。ただ漠然と企業に就職したいと考えているが、これは本当に漠然としたものである。そんな私にとって、日本銀行に勤めている益田さんの講座は、とても興味深いものだった。

私が今まで受講してきた進路講座は、弁護士や官僚として働く方のお話を聞くことが多かったように思う。対して今回は、益田さんが実際に体験した就職活動の様子を聞くことができ、初めて知ることも多かった。

まず、就職活動において、OB訪問がかなり重要であるということ。実際に益田さんも、日銀OBの方に話に感化されて日銀を志したとおっしゃっていた。これは就職活動だけでなく、進路に悩んでいる今の私にも当てはまる。附設という環境にいるからには、自分から積極的にコンタクトを取らないともったいない、ということを感じた。

そして、東大生だからと言って就職は甘くないということ。これは講座後に聞いたことだが、東大生でも何十社もの企業を受けて就職する人は少なくないようだ。当然、東大に行けば選択肢は広がるが、あとは自分次第。当然のことなのだが、就職活動の大変さが想



像以上で、身の引き締まる思いがした。

印象に残った言葉がある。益田さんは、日銀で働くことを、「そこでしかできない仕事」をしていると表現していた。やはり、自分の仕事に対して誇りをもって働いている人は、かっこいい。私にとって、自分を誇れる仕事とは何なのか。自分は誰のために何がしたいのか。この進路講座で得た情報をもとに、考え続けようと思う。

文責：高1E 宮崎菜摘

私は文系に行こうとは決めているのですが、将来の職業について漠然とした知識しかなかったので、今回一つの選択肢として銀行のことについて詳しく知りたいと思いこの講座を選びました。

私は、銀行の仕事について何もイメージが湧かなかったので益田さんの話されたことがとても新鮮でし



た。益田さんは、沖縄の支部に行かれて、そこで地元の会社の方々にお話を聞いていたとおっしゃられていましたが、私はそういった、人とかかわるような仕事に興味があるので、その結果が見えにくいとしてもとてもやりがいを感じられるものだなと感じました。

私が益田さんの講座で印象に残っている言葉があります。それは、そこでしかできない仕事、これが自分の人生だといえるようなことをする、ということです。私はこの言葉を聞いて、すごく納得できたのですが、よく考えてみると結構難しいことでもあるなと思いました。何か大きい仕事をもってそれを成し遂げることができる機会って少ないと思います。でもそんな中、そこを目指して進んでいる益田さんの姿には憧れましたし、自分になりたい未来像というのが少し見えたような気がします。

今回のこの進路講座を通して得たものはとても大きかったです。私たちとはお歳がそんなに離れていなかったり、同じ女子一期生だったりして、少し親近感

のようなものもあって、講座が終わって就活などのお話も気さくに話してくださりとでも感謝しています。とりあえず目の前にあるのは大学受験ですが、私

し銀行に就職することになったら、それはこの益田さんの講座のおかげだと思います。ありがとうございます。
文責：高1C 緒方雅子

私は、日本銀行を将来の就職先として真剣に考えていたことがあったため今回の進路講座をととても楽しみにしていました。また講師の益田先生が同じ文系で、受験に成功している先輩なので受験や勉強についてのアドバイスや大学生活についても詳しく教えて頂きたいと思っていたので、その意味でも楽しみでした。

実際にお話を聞くと、日銀が普段どんな活動をしているのかを実際の経験談やドラマの例えを交えて教えて下さったので教科書やインターネットで説明を読むよりずっと分かりやすく、今までほんやりとしか知らなかった日銀での仕事が少しだけ実体を持って見えたような気がしました。特に、沖縄での地方の経済状況の調査のお話を聞いて、本当に日本の経済に直接関わっていける仕事なんだと感じ、日本の経済を守る「最後の砦」であるということも本当に日銀にしか出来ない仕事という感じがしてとてもかっこいいと思

いました。受験については、普段の勉強時間や受験期の勉強時間、得意科目と不得意科目など具体的なお話を聞くことができ受験が自分に近いところを感じられて、今の生活態度も受験に関わっているということを再認識しました。また、大学生活での楽しかったことを聞いて大学進学後がよりいっそう楽しみになったと同時に、徹夜をしたこともよくあったほどゼミの大会に打ち込んだというお話を聞いて、自分の興味のある分野で気が済むまで全力で一つの事に集中することが許される大学という環境は確かにとても魅力的に思えました。そして、そこへ行くために今努力をしなければいけないと改めて思いました。

日銀での仕事を具体的に知って魅力的に感じられ、受験へ向けた意識も改めることができ、私にとっても有意義な進路講座でした。ありがとうございます。
文責：高1A 伊藤若菜

第13回 有薫コンペ 2017年7月17日(祝) グリッサンドGC 総勢109名

酷暑の中で久々に「附設祭」となりました!



主催者から思わず「附設の一極集中勝利」への戸惑い発言があるほどの完全勝利でした。ミスター有薫コンペの古原先輩はいつも通りのご活躍でしたが、木内先輩が個人優勝で古原先輩が準優勝、チームも優勝という快挙でした。お二人に日高先輩、榎原先輩が加わった梅檀Aチームは2位に10ポイントも引き離すぶつちぎりでした。梅檀Bチームも負けてはいません。遠山先輩は堂々の2バーディでチームを引っ張り、佐藤先輩も森山さんも初出場とは思えない成績でした。高尾野は? 幹事に徹しました(笑) 梅檀Bチームもきっちり飛び賞を獲得し、参加して頂きました皆様の御蔭で本当に楽しい一日でした。 高尾野健(35回生)



第13回結果報告

【個人成績】

優勝：木内 大(33回生)、準優勝：古原岳志(25回生)

ベスグロ：古原岳志 (35/39=74)、ドラコン：古原岳志

【団体成績】

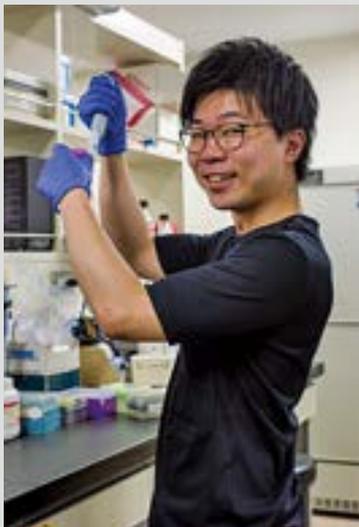
優勝：古原岳志(25回生)、日高雄三郎(29回生)、

榎原 孝(29回生)、木内 大(33回生)

15位飛び賞：遠山茂幸(18回生)、佐藤龍二(32回生)、

森山 猛(35回生)、高尾野健(35回生)

次回は2月の予定です。修猷館もリベンジに燃えてくるでしょう。連覇を目指していきましょう!



山下 耕輔 (59回生)

東京大学薬学部 6年

臨床と研究の両方を学ぶことができる 薬学部の魅力

【自己紹介】

附設59回生、現在東京大学薬学部6年の山下耕輔です。東大の理科I類に入学した後に、文転して心理学を学びたいと考えたのですが、大学3年次からの学部を成績順で決める「進学振り分け」で点数が足りず落選してしまい、定員割れしていた薬学部に入ることになりました。

【大学生活】

そうして望んでいなかった薬学部に進学した僕ですが、薬学部で学びを重ねるうちに科学(医薬品)をもって人体に介入する(治療する)面白さを感じるようになりました。もっと患者さんの近くで学びたいと思い、6年制の薬学科に進学して病院・薬局での半年間の実習に取り組みました。実習中の半年間は朝の早起きが辛かったり、慣れない業務に追われたりしてストレスフルな生活でしたが、患者さんに笑顔で「ありがとう」と言っていたいた時はとても嬉しくて疲れが吹き飛ぶ思いでした。

また、4年次からは研究室に入り、精神疾患に関する研究をしてきました。病気の研究といっても試験管振ったり細胞をいじったりするだけの地味な作業が多く、イメージしていた格好良い「研究者」とは少し違いました。時期によっては研究室に泊まり込みで実験する必要があり辛い時も

ありましたが、今まで分かっていなかったことを自分が世界で初めて発見できた時には非常に大きな達成感を得ることができました。研究の魅力の1つとして論文投稿が挙げられますが僕はまだ一本も出せていないので、現在は卒業までに論文を出して自分の名前を世界に轟かせることを目標に日々の研究に取り組んでいます。

臨床と研究の両方を学ぶことができるのは薬学部ならではの魅力だと思います。当初の希望とは異なる進路でしたが、結果的に楽しく刺激的な大学生活を送ることができており、とても満足しています。

【附設生との交流】

今年で附設を卒業して7年目になりますが、今でも附設の同期とは頻繁に飲みに行きます。附設での密な3年間を共に過ごしたからこそ、腹を割って話ができるとても貴重な存在です。

また、同窓会の皆様方が毎年開催してくださる就活セミナーには2年にわたり合計3度参加させていただき、大変お世話になりました。あらゆる業界の第一線でご活躍されている先輩方に直接ご指導いただき、とても勉強になりました。今後就職活動を控えている人には参加してみることをお勧めします！

研究室の卒業生追出しコンパにて



附設同期の忘年会にて



大学生活を振り返って



原田 裕太 (60回生)

東京大学大学院農学生命科学研究科
修士2年

附設同窓生の皆様こんにちは。60回生の原田裕太と申します。私は現在、東京大学大学院の農学生命科学研究科に所属しています。これまでの学生生活の思い出と、現在の研究室での生活について簡単に紹介させていただきます。

教養学部時代

私は、2012年に東京大学理科一類に入学しました。教養学部ではドイツ語クラスに入り、頭がよく面白い同期に恵まれ、試験に苦勞しながらも日々楽しく過ごしていました。そんな折に、たまたま受講した海に関するオムニバス講義で海の良さに目覚めてしまいました。その結果、気が付くと理科一類からほとんど進む人がいない農学部の、しかもその中でも特に人数の少ない水圏生物科学専修という専修に進んでいました。

農学部時代

私が進んだ水圏生物科学専修は、海に関すること全般を学ぶことのできる所でした。海産物の栄養素や有効成分といったことから、魚の病気や養殖、漁獲に至るまで幅広く勉強することができました。全員で実習に行くことも多く、人数が少ないことも相まって仲のいい専修だと思います。ちなみに、東大の文化祭である五月祭で、名物?の鰻丼を販売しているのは私たちの専修です。おいでになった際には、ぜひ食べてみてください。

大学院時代

大学院では水圏天然物化学研究室という、海洋生物由来の新規有用化合物の探索を行っている研究室に入りました。そこで私は、遺伝病を治療する化合物やがんの治療薬となるような化合物を探しています。なかなか有望な新規化合物が見つからず苦勞の連続ですが、無事に修了できるように頑張っています。

研究生活で特に楽しかったのは、沖縄へサンプル採集に行ったことでしょうか。他大学の船に乗せていただいて沖縄に行き、石垣島のリーフの上や、船の上で海洋無脊椎動物の採集を行いました。自然の恵みを直接感じることができた、素晴らしい体験でした。

振り返ってみると、多くの人に助けられ、友人に恵まれた学生生活でした。学生生活で得た経験を活かして、この先の社会人生活も頑張っていきたいです。



魚里文彦 (61回生)

京都大学文学部人文学科4年

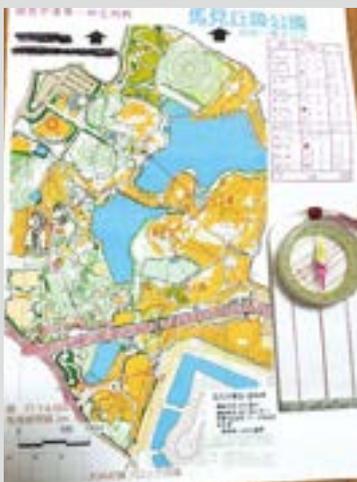
オリエンテーリングと謎解き

こんにちは。附設高校61回生、京都大学文学部4年生の魚里文彦と申します。大学4年生である現在は、就職活動も終わり、迫りくる卒業論文の執筆から適度に目をそらしつつ、サークル活動や趣味に没頭する生活を送っています。

大学では、新しいことをやってみたいと思い、二つのことを始めました。一つはオリエンテーリングというスポーツです。かなりマイナーなスポーツなのですが、簡単に言えば、山の中を地図とコンパスだけを持って走り回りその速さを競うスポーツです。地図には、スタンプラリーのようにめぐるべきチェックポイントがいくつも書いてあります。それを順番にたどっていくのですが、チェックポイントの間をどのようなルートで進むのかを体力と相談しながら自分で考える必要があります。これが醍醐味ともいえます。もともと、中学・高校時代は、運動部ではなかったのですが、山の中を駆け回る爽快感とルートを考える楽しさに惹かれ、今でも続けています。

二つ目は、謎解きです。謎解きという言葉にピンとこない方は、リアル脱出ゲームという言葉を知ったことはないでしょうか?どちらもおこなっていることはだいたい同じで、以下にあげたような暗号やパズルをストーリーにそって解いていく体験型エンターテインメントです。私はこのようなイベントを企画運営するENIG-ROIDというサークルに所属し、大学の文化祭やイベントホールなどで開催しています。最近は活動の機会が増え、依頼を受けて、ゲームとコラボした謎解きをつくったり、結婚式の余興用のイベントを企画したりと色々なことにチャレンジをさせて頂いており、とても楽しく活動しています。謎解きのイベントは各地で行われているので、気になる方はぜひ参加してみてくださいはいかがでしょうか?

このように大学では、新しいことをはじめてみた結果、とても充実した時間を過ごすことができます。残り少ない大学生活ですが、悔いの残らぬようまだまだ楽しんでいきたいと思っています。

オリエンテーリングの
地図とコンパス

謎解きの一例



西村 匠平 (61回生)

慶應義塾大学法学部政治学科 4年

私の学生生活／学業とサークル活動



附設61回生、慶應義塾大学法学部政治学科4年の西村匠平です。今回は慶應義塾大学での私の学生生活を、学業とサークルを中心にご紹介させて頂ければと思います。

それではまず初めに、学業面について簡単にご紹介します。法学部政治学科は法律学科に比べると、基本的な法学を学ぶ授業は共通していますが、より政治について学ぶ授業が多いのが特徴です。政治といっても幅広く、自分の好きな分野なら何でも学ぶことができます。特に3年生からは多くの人がゼミに入るので、そこで興味のある分野について専門的に学ぶことができます。私は大石裕研究会というマスメディア・ジャーナリズム研究を行うゼミに入りました。週に1度、3時間に渡り、ジャーナリズムを学び、実際に新聞分析を行います。同期は20人程度で、3、4年生はゼミの仲間が中心になりました。このような学術的な授業もある一方で、体育という授業もあります。私は4年生になってゴルフの授業を取っているのですが、正直言ってこれまでの授業の中で一番楽しいです。今後の人生で一番活かすことができる授業かもしれません。慶應に入学したら勝又先生のゴルフを取ることをオススメします。

次にサークル活動についてお話します。私は「慶應ダイビングパーティー (KDP)」というスキューバダイビングのサークルに所属しています。基本的には伊豆の海で潜り、夏休みと春休みは海外合宿を行い、30人程度で海外の海で潜るといった素晴らしい体験ができます。左の写真はセブ島で見たジンベエザメと友人を私が撮影したものです。慶應には数え切れない程のサークルがあり、どんな趣味を持った人でも楽しむことができます。サークルは見極めないと、警察沙汰に巻き込まれるのでご注意ください。

最後に、慶應義塾大学は様々なバックグラウンドを持った人と出会い、共に学び、遊び尽くせる大学だと思います。何をするにも最適な環境だと思うので、もし東京に進学しようとしている後輩がいたら、ぜひ考えてみてください。





佐々木 彰之

(高校61回生)

東北大学医学部医学科3年

東北大学への入学のススメ

附設高校61回生、東北大学医学部医学科3年の佐々木彰之です。

4月の初めに東北地区附設高OB懇親会に参加したご縁で書かせていただくことになりました。今年から同級生の一部は大学を卒業し社会人となり、いまだに大学生活を4年残していることにわずかばかり不安を抱えています。今回、大学や普段の生活の中での他の人とは違った経験を伝えれば良いかなと思っています。

私は、2年の浪人を経て2015年の4月に東北大学に入学しましたが、高校のOBはおろか九州出身者すら周りにいない環境に身を置くことになりました。やはり東北大学の入試の魅力は圧倒的センター試験の配分の低さであり、いかに自分の得意分野を生かせるかがポイントとなっています。そのため大学の同期も個性豊かで雰囲気としては高校時代と似ている部分も多々ある気がします。ただ、東北地方の気候には悩まされることがあります。入学当初に仙台出身の同期に雪はほとんど降らないと聞いていたにもかかわらずそれなりに積もるため、雪道で靴をダメにしたり、車のタイヤはスタッドレスに変えなければいけません。また、ゴルフ部に所属していますが、冬にラウンドができないという難点もあります。一方、真夏でも夜遅くになれば涼しくなるという良い点もあります。

九州の人間としてみなさんは遥か遠くの東北大学にどんなイメージを抱くでしょうか。もともと他の大学を志望していたこともあり、入学した後で大学の特徴を色々知るようになりました。やはり鳥人間コンテストで優勝した大学というイメージが大きい人もいるでしょう。また、自他共に認める工学部がメインの大学です。そんな東北大学は開学以来の「研究第一主義」の伝統、「門戸開放」の理念及び「実学尊重」の精神を基にしており、なにより、人類社会の様々な課題に挑戦し、人類社会の発展に貢献する「世界リーディング・ユニバーシティ」であることを目指しています。そのため、休み期間を利用した海外短期留学プログラムも多く企画されています。また、本大学の医学科では、3年次後期の半年間が丸々基礎修練期間となっています。自分の興味のある研究室に通い先生方と同じように自分のテーマを持って研究を行い論文にまとめます。そのため相手方からの許可さえ得られれば海外の研究室に通うことも可能となっています。今回、私は東北大学の先生の協力もいただきアメリカはBaltimoreのJohns Hopkins Universityで消化管の癌についての研究に参加させてもらうことになりました。自分が将来どういう場で貢献できるかはわかりませんが、今回の留学で必死に食らいついてできるだけ多くのことを吸収して帰国し、それを今後の医師人生に生かしていこうと思います。

最後に、今後東北大学にも附設高出身者が増え、東北地方でも九州出身者がもっともっと活躍できることを願い寄稿を終えさせていただきます。



高校同期とゴルフコンペ
(2017年3月)



他大学主催のStanford Universityでの
研修 (2017年3月)



松尾 耀乃 (64回生)

産業医科大学医学部2年

産業医科大学について

初めまして。高校64回生の松尾耀乃と申します。高校共学になって9年目の学年にあたります。

高校時代は63回生と64回生が創設した器学部在籍し、芸術週間ではピアノを演奏していました。体育祭では2年連続チアに携わり、男く祭では有志でダンスを踊ったりもしていました。質の高い勉強を受けさせていただいたのは勿論のこと、勉強以外も自由に活動させていただき、附設生活を謳歌し、貴重な3年間を過ごすことができたと思います。

私は高校3年生の時に産業医という職業に興味を持ち、推薦入試を受けて産業医科大学に入学しました。

私が通っている産業医科大学（略称：産医）について、簡単に紹介します。

産医は産業医の育成を目的とする日本で唯一の医科大学として昭和53年に設立され、卒業生は産業医や産業医学・産業保健の分野で活躍し、震災後のメンタルヘルス面での復興支援にも貢献しています。大学では、他の医学部と同様の勉強に加え、1年次から6年次の各学年において産業医学を勉強します。3年次には産業医学現場を見学し、5年次には実習もあります。単科大学である産医は、コミュニティが密で、先輩や後輩との繋がりが非常に深いため、卒業生の先輩産業医にお話を伺う機会も多く、産業医学の分野において強いネットワークを持っている産医だからこそ、経験できることが多いと実感しています。また、大学卒業時に医師免許と産業医資格（永久資格）のダブルライセンスを取得できることは産医の大きな特徴です。

医師全体に占める専属産業医の割合は少ないですが、産業医の仕事は家庭と両立しやすく、女性にとって働きやすいことも魅力だと感じています。

ここ産医では、年に1回、附設会が開催されます。附設出身で産医に在籍する学生、産医を卒業された先輩医師、そして産医で教鞭を執られている先生が一堂に集まり、色々なお話を伺うことができ、有難く感じています。

附設で過ごした高校時代は一生の宝物といえるほど、充実していました。現在、大学生活を満喫しているのは附設で過ごした3年間の土台になっているからだだと思います。今後も附設で培った絆を大切に、目標に向かって日々精進したいと思います。



ブラジルでのスタディツアー。
ずっとここにいたいと思うほど、
海が綺麗でした。

H26年度附設会。
学生11人、先生方6人で和気藹々とした
雰囲気でした。



附設合格状況

附設高等学校進路指導部長 城戸 清

◆国公立合格数は今年も多数

平成29年度は、国公立大学に現役生が102名(防衛医科大学校6名、防衛大学校4名、気象大学校2名を含む)、浪人生91名(防衛医科大学校8名、防衛大学校1名、気象大学校3名、自治医科大学1名、産業医科大学3名を含む)が合格しました。合計193名で、昨年216名には及びませんが、一昨年185名よりは8名多い結果でした。

東京大学が現役生21名、浪人生6名で合計27名、九州大学が現役生28名、浪人生20名で合計48名、長崎大学が現役生5名、浪人生13名生で合計18名、山口大学が現役生7名、浪人生2名で合計9名、熊本大学が現役生3名、浪人生5名で合計8名、京都大学が現役生2名、浪人生5名で合計7名などが主なものです。

東京大学は、現浪、文理とも志願者が昨年より減少し、合格者が減ることは覚悟していました。文系現役生は期待通りでしたが、理系の厳しさを感じさせられ、昨年より10名減でした。京都大学は3名減で一昨年と同数でした。

◆今春の医学部医学科合格数は過去最高

国公立大学の医学部医学科が現役生37名、浪人45名で合計82名(産業医科大学3名、自治医科大学1名を含む)、昨年から17名増で過去最高でした。九州大学では、昨年から6名増の28名で過去最高、合格者の丁度四分の一が附設生です。長崎大学13名、山口大学8名、熊本大学7名、佐賀大学5名、ここまでの61名です。広島大学3名、東京大学2名と続きますが、関東は筑波大学、千葉大学に1名ずつで、京都大学と大阪大学はともに0名で、挑戦したものの都会では厳しい結果でした。国公立を日程別に見ると、前期・推薦等が69名で昨年より13名増、後期が9名で昨年4名から倍増、うち現役生は6名と多く最後まで頑張った結果です。

◆希望が多い医学部医学科

本校の卒業生は約200名で、最近は四分の一の約50名が文系、残り約150名が理系、その過半数が医学部医学科志望です。今年の現役生は文系が29名と少なく、また160名を超える理系では医学部医学科志望が例年以上に多い学年でした。浪人生の健闘もあって、90名以上が進学し、そのうち国公立が80名以上、私立が10名程と過去最高の結果を得ました。一方、現役女子は、国公立の推薦と後期日程では進学していますが、理数勝負となる前期日程、私立の合格者が0名という厳しい結果でした。

高等学校からの入学生(外進生)を男女共学にして10年以上になります。入学時には、女子生徒の多くが医学部医学科志望です。将来にわたって学ぶ向学心を持っていて、労を厭わず他人の役に立つ仕事をしたいとの希望に加え、保護者に医療関係者が多いことから、自然なことです。本校は、その希望が叶えられるよう、男女を問わず手助けをしようと努力しています。

◆校内模擬試験が進路指導の要

本校の進路指導の要に、校内模擬試験があります。高校2年生までは、日々の学びのまとめを、年間5回の定期テストで確認していきますが、高校3年生と希望する浪人生は、年4回の校内模擬試験を受けます。個別の大学入試に対応した記述形式の模擬試験で、平均点は約4割、4回平均で5割を超えれば、東京大学、京都大学、九州大学医学部などの難関大学に高い確率で合格できます。

問題作成と採点には、本校の中学、高校入試と同様、ほとんどすべての教員が参加し、成績検討会もします。高校三年生を直接教えていなくても、問題の作成と採点を通じて指導しています。また将来の高校三年生になったときに実力がついてるように、高校二年以下の生徒の学習指導に活かしていくことができます。

◆今年も全力で取り組む覚悟です

この春の結果は、現浪併せて国公立大学に169名(産業医学科、自治医学科を含み大学校は含まず)で、ここ5年では昨年に次ぎ多数の結果でした。現役生は高校2年生まで特に英語の実力は心配でしたが、担任の先生方のきめ細かい指導に従い、高校3年生では英語の実力を伸ばし、全科目において先生方の指導に素直に従いつつ、生徒同士学びあった成果だと思います。

この素晴らしい結果で、来春もまた浪人生が減少し、合格数は減るかもしれません。しかし附設では生徒一人ひとりが妥協せずに志望を実現することを大切にしています。厳しかった理系、医学部現役女子を教訓にしつつ、合格できる大学ではなく、志高く進学したい大学を目指し、校内模試でも現役生と切磋琢磨してほしいと願い、全力で指導に取り組む覚悟です。

表1 国公立大学合格者数 (単位:人)

平成28年度		平成29年度	
東京	37	東京	27
九州	40	九州	48
大阪	11	長崎	18
京都	10	山口	9
熊本	9	熊本	8
一橋	8	京都	7
長崎	8	東京工業	5
山口	7	佐賀	5
北海道	5	北海道	4
その他	81	その他	62
合計	216	合計	193

国公立大学の「その他」は、大学校、自治医科、産業医科を含む

表2 私立大学合格者数 (単位:人)

平成28年度		平成29年度	
早稲田	37	慶應義塾	28
中央	27	中央	20
慶應義塾	23	東京理科	18
明治	21	早稲田	17
東京理科	19	久留米	16
久留米	14	明治	13
福岡	12	福岡	12
同志社	9	立命館	4
青山学院	5	産業医科	3
その他	54	その他	39
合計	221	合計	170

私立大学の「その他」は、自治医科、産業医科を含まない

表3 医学部医学科合格者数 (単位:人)

平成28年度		平成29年度	
九州	22	九州	28
長崎	6	長崎	13
山口	5	山口	8
熊本	5	熊本	7
大阪	4	佐賀	5
東京	2	広島	3
京都府立医科	2	東京	2
神戸	2	筑波	1
佐賀	2	千葉	1
京都	1	岡山	1
その他	14	その他	13
国公立計	65	国公立計	82
久留米	14	久留米	16
福岡	7	慶應義塾	4
慶應義塾	1	福岡	3
その他	15	その他	20
私立計	37	私立計	43
防衛医科	17	防衛医科	14
合計	119	合計	139

国公立大学の「その他」は、自治医科、産業医科を含む

**中村 雅史** (66回生)

高校前生徒会長

最後の『男クラ』世代

高校66回生で生徒会長を務めさせていただいた中村雅史です。この度、在校生代表としての同窓会報への寄稿ということで、附設中高の過渡期中で最後の中学男子校世代である我々の学年、中学44回生・高校66回生について書かせて頂きます。読みづらい文章ですが、ご自身の学生時代を懐かしみながら気楽に読んでいただければ幸いです。

多くの卒業生の皆様方には、男子校・附設の男だらけの男臭い教室で青春時代を過ごした思い出が残っていることと思います。しかし、その男子だけのクラス、いわゆる「男クラ」(尤も、多くの先輩方の時代には、そのような呼称を用いる必要もなかったことと思いますが)は現在、我々の高3の代にしか残っていません。

さて、この「最後の男クラ世代」はまさにその名にふさわしい歴史を辿ってきました。その名にふさわしい、ということの一つの意味は男子校特有の自由で賑やかな雰囲気根付いているということです。中学時代にはあまりに自由な学校生活に関して、今年の3月退任なさった先代の吉川校長は我々の学年のことを「山賊」とおっしゃいました。

一方で、「最後の」学年は、その後に始まる新たな物事に対応せねばなりません。中学共学化に伴う男女比変化やその他の影響による各種大会のシステム改正などを責任もって行ってきたのも我々の学年です。例えば、中学体育祭ではその後の大会運営の足場となるよう、一年先駆けてブロック数の変更を行い、高校体育祭では騎馬戦に代わる大トリを飾る競技の考案などを行いました。また、「不易流行」(=古き本質を守りつつも、新たな道を開拓すべきという元は俳諧の理念)というテーマを掲げて、二日目を新たな会場で開催した男く祭は大成功を収めました。

このように希少かつ責任ある立場にあるこの学年で5年間以上の附設生活を送ってきて、充実していたなという思いが強いです。女子の数が増えて、中学棟などを通るときや通学中に、自分たちの頃と比べると変化を感じることも多くあります。しかし、部活や生徒会等で後輩達と接していると、完全共学化した附設が伝統として受け継いできたその本質を失うことはないだろうと感じるし、そのように期待したいと思います。



友清雄太 (66回生)
男く祭実行委員長

男く祭2017 高校のみ共学の学年、 2日目新会場初年度として迎えた特別な男く祭 ～不易流行の精神とともに～

初めまして、第47回男く祭実行委員長を務めさせていただいた友清雄太(伊万里小学校出身)です。

今回の第47回男く祭は2つの大きな変化の中で行われた文化祭です。文化祭主催学年であった現高校3年生(66回生)は中学最後の男子学年であり、高校のみ共学というかつての附設にあった形態を残す唯一の学年です。現に附設を卒業された先輩方にとって馴染み深い男く祭は高校3年生の3クラスしか存在しません。私たち66回生は、これまで先輩方が作ってこられた男子校ならではの雰囲気やノリを持っている最後の学年であるという自負がありました。また、今年度から久留米市民会館の閉館に伴い、新たに建設された久留米シティプラザに2日目の会場が移行しました。そのため、これまで歴代の先輩方が作ってこられた文化祭2日目を刷新し、新たな2日目を一から築き上げる必要がありました。シティプラザの構造上、これまで市民会館で通用して来たものが不可能であるということが数多くあり、タイムテーブルの見直しから始まり、警備の誘導経路、コーラスの曲数の再編、といった様々な変化を余儀なくされました。コーラス大会が午前中になり、太鼓・演劇等が午後になったと聞いたら驚かれる先輩方もきっと多いことと思います。上記の2つの事情により、今年の男く祭は、これまで先輩方が男子校として作って来られた古き良き伝統を守り、さらに完全に共学化された附設としての新たな伝統の土台を作っていく必要がありました。

そんな事情で今年の男く祭のテーマに選ばれたのが「不易流行」。松尾芭蕉の言葉で意味は、絶対に変わることがない本質部分を忘れずに、新しく変化を続けているものを取り入れていくこと。この四字熟語ほどの確に今回の文化祭を言い表す語はないと思います。

1日目は毎年恒例の人気企画であるカッコメン、男子校時代からの伝統である女装コンに加え、脱出ゲームやアカベラショー、科学実験ショー、ライブなど1日で周りきれない程の多くの企画があり、どれも大盛り上がりでした。個人的には新企画として始めた附設グッズ(トートバッグ・マグカップ)が大好評だったことにとっても満足しています。

2日目も今年から新会場に移ったはずなのに、警備の誘導がとてもスムーズに行った結果、タイムテーブルを押すどころか巻き、予定時間5分前に終わるといった奇跡が起きました。事前に実行委員、警備P間で綿密なシミュレーションを何度も繰り返した成果だと思います。講演では附設OBで、バイオベンチャー企業を経営しておられる鍵本忠尚氏(43回生)を講師に迎え、最先端のiPS細胞研究開発、商品化という普段の学校生活ではまず聞くことが出来ない刺激的な話をさせていただきました。また、会場が新たに久留米シティプラザに移行したことで様々な変化が起きたことにより、ここ数年の男く祭2日目の課題であった“マンネリ化”からの脱却を今年は見ることができたと思います。

総じて振り返ってみると今回の男く祭の理念として掲げた古き良き伝統を受け継ぎつつ、新たな伝統を創出するという“不易流行の精神”がよく現れた文化祭になったと感じており、実行委員長としてとても満足の行くものになりました。来年以降は中学共学世代が全学年を占めることになる附設。共学の完成という新たな味が加わる文化祭。楽しみでなりません。



平成29年度

久留米大学附設高等学校同窓会 東京支部総会開催のご案内

平成29年11月18日(土)

支部総会：14:00～ 懇親会：15:00～18:00

会場：大崎ブライトコアホール
<http://osaki-hall.jp/>

このたび久留米大学附設高等学校同窓会東京支部では、34回生を幹事回生として平成29年度（2017年度）の支部総会・懇親会を下記のとおり開催いたします。本年度は「附設の力（32回生）」「附設今昔（33回生）」に続いて、「附設のつながり」をメインテーマに展開する予定です。親子のつながり、部活のつながり、業界のつながり、先輩後輩の意外なつながりなど、同窓生の様々なつながりを紹介する場にできればと思っております。全世代の同窓生が自分たちの原点を確認し、互助、親睦できる場となることを目指しています。同窓生の皆様のふるってのご参加をお願いいたします。

大崎駅はアクセスも良く、西口バスターミナルへは、羽田空港・成田空港からも直行バスが運行しています。遠方からの参加もお待ちしています。

会場案内

大崎ブライトコアホール

〒141-0001 品川区北品川5-5-15
大崎ブライトコア3F

交通

JR山手線・埼京線・湘南新宿ライン・りんかい線
「大崎」駅南改札口より徒歩5分

平成29年度東京支部総会幹事長

34回生 田中昭彦



第22回 附設就職セミナー

Phase 1: 2018年2月24日 土曜 13:00～

Phase 2: 2018年4月28日 土曜 13:00～

コンテンツが異なる為、両日程の参加をお勧めします。

■ Originality

附設OBがあつい想いを持って創り上げる
オリジナルで“附設らしい”就職セミナーです。

■ Evolutionary

附設同窓会という伝統を活かし、過去の
参加者からの要望を踏まえ進化してきました。

■ Community

官公庁・商社・金融・メーカー
| T・マスコミ・広告・流通
幅広い業界の先輩と出会うチャンスです。
懇親会も予定しています。

■ Family

附設ファミリーとして、附設卒業生ではない
お子さんの参加も大歓迎です。

会場 神田 学士会館
東京都千代田区神田錦町3-28

●同窓会室の紹介●

1号館1階に整備、拡充された、同窓会室・後援会室

新校舎建替工事に伴い、1号館1階の旧事務室の後に、同窓会室と後援会室が一室に一体的に整備、拡充されました。同窓会と後援会のより一層の連携、協力により、卒業生と在校生とのさらなる交流が広がることを願っています。同窓生OBが在校生に色々とアドバイスできる場にもなるでしょう。母校に来られた折には、是非お立ち寄りください。



同窓会から毎年卒業生に贈られている卒業記念品のペーパーウエイト▶



同窓会からのお知らせ

同窓会に対する各種問い合わせは下記のいずれかでお願ひします。

【電話】 **0942-44-2222**

【FAX】 **0942-44-8257**

【メール】 **hello@fusetu.net**

【同窓会ホームページ】 **http://www.fusetu.gr.jp/** 【WEB名簿】 **http://fusetu.in/**

【同期の回生代表世話人】 P.34ご参照 回生代表世話人のメアドは同窓会にお問い合わせ下さい。

※住所変更などの連絡は、上記各窓口へ。

※宛先不明者の方については、ホームページに掲載しております。情報をお持ちの方は同窓会までご連絡下さい。

※同窓会についての疑問や質問もどしどしお寄せください。

◆編集後記

8月発行に変わった同窓会報もこれで4回目を迎えました。皆さまのご協力により、毎年、内容やボリュームも充実し、昨年は160頁を超える同窓会報が出来上がりました。一方で会報の印刷代や郵送代がかさみ、予算を超えるコストがかかってしまいました。昨年をふりかえり、今年は内容の充実とコストのバランスを考えた同窓会報作りに注力しました。原稿についても厳選させていただいた関係で掲載できなくなった方々にはお詫び申し上げます。同窓会報の末尾に掲載させて頂いております広告につきましては、昨年からは始めた福岡・東京の両総会幹事学年(28回生・34回生)による同時募集方式で広告件数・金額も大幅にアップすることができました。広告掲載にご協力頂きました皆様、幹事学年の皆様、印刷等にご協力頂いたハシモト事務機様(橋本和幸社長・20回生)、桑川印刷様(高尾野健社長・35回生)に厚く御礼申し上げます。卒業生の同窓会員はもちろん、母校の先生方、同窓会員である高校在校生、ならびにその保護者の皆様にもご理解を深めていただきたく、内容の更なる充実に向けて参りたいと思いますので、今後ともご協力ご支援のほど宜しくお願い申し上げます。最後になりますが、本同窓会報にご寄稿いただきました皆様に改めて厚く御礼申しあげます。



広報委員長
中村和徳(27回生)

久留米大学附設高等学校同窓会

広報委員会：中村和徳(27)・古澤生敏(15)・小田恵介(19)・高橋友作(19)・橋本和幸(20)・安部政信(20)
中村尚昭(22)・江頭修作(28)・田中昭彦(34)

広告委員会：吉本幸治(28)・中村和徳(27)・小田恵介(19)・松雪恵津男(22)・野田武志(28)・中村雄平(34)
協 力：牛嶋啓二(26)・高尾野健(35)・中村昌子(事務局)